Ⅲ　県外観光客動態調査

1　概要

●　はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて１グループに１名（１回答）を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

●　調査場所（10 地点）

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、桂浜、高知城、
土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

●　調査時期

・冬季：令和２年　１月　２日～令和２年　３月　８日
・春季：令和２年　６月 20 日～令和２年　７月 24 日
・夏季：令和２年　８月　１日～令和２年　８月 22 日
・秋季：令和２年 10 月　３日～令和２年 10 月 31 日

※１日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

・春季：モネの庭、アンパンマンミュージアム（各２日間）
・夏季：モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞（各２日間）

● 調査結果の概要

「１泊２日」が過去４年を通じて最大。県内旅行日数は前年比 0.1 日減で 2.0 日。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表 3-1）は、「１泊２日」が 44.1％と過去４年の調査を通じて最大となり、「日帰り」が 33.4％で最小となった。前年比では、「１泊２日」が 5.1 ポイント増加し、その他の旅行日程はすべて減少となっている。

県内旅行の平均日数（P24：図 5-1）は前年から 0.1 日減少して 2.0 日となり、主要な発地ブロックでは「四国」が増加、「近畿」「中国」は横ばい、「関東」が減少となっている。

「関東」からの入込が減少。近隣の「近畿」「中国」「四国」が増加。

発地ブロック別入込割合（P20：表 4-1）では、「関東」が 11.0％と過去４年の調査を通じて最小、「近畿」と「中国」は最大、「九州・沖縄」も前年と並んで最大となった。前年比では、「近畿」「中国」「四国」の近隣３ブロック合計で 4.3 ポイント増加した一方で、「関東」は 3.6 ポイントの減少となっている。

「2～3 人」の「家族」旅行が増加。「１人」旅の増加傾向も継続。

旅行形態割合（P29：表 8-1）は、前年比で「家族」が 2.7 ポイント、「１人」が 0.2 ポイントの増加、その他の旅行形態は減少となっている。同行者数割合（P30：表 8-2）は、前年比で「2～3 人」が 3.5 ポイント増加した一方で、「4～5 人」以上の区分はすべて減少となっている。

県内平均消費額は、前年比で 912 円減少の 24,294 円。

県内平均消費額（P35：図 10-1）は、前年比で 912 円減少の 24,294 円となった。近年続いている減少傾向が今年も継続しており、過去４年の調査を通じて最小となった。四季別（P38：表 10-2）では、春季が 892 円増加したが、その他の時季がすべて 1,000 円以上の減少となっている。

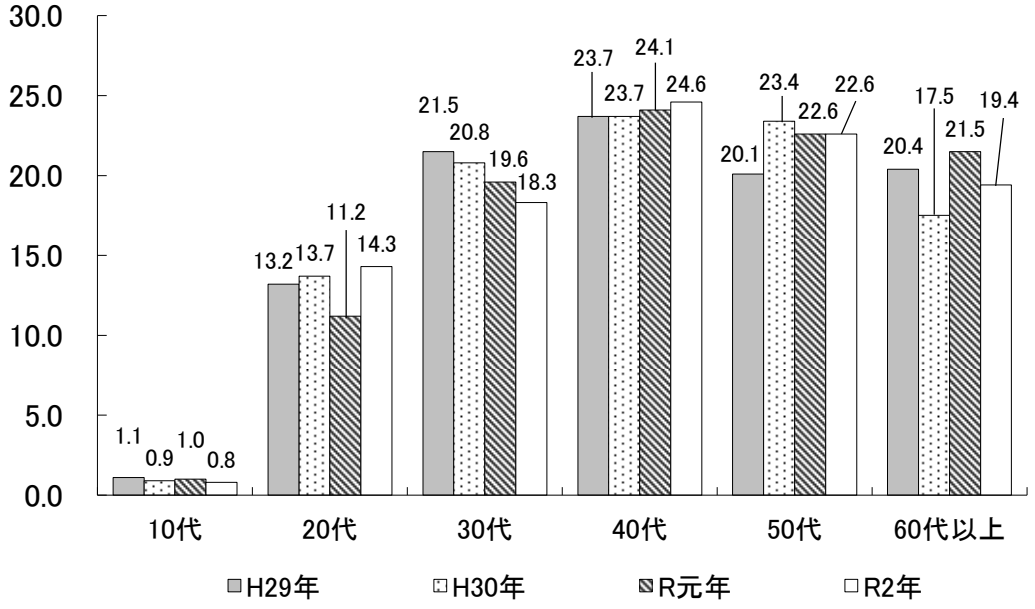
費目ごとの変動（P35：表 10-1 参考①）は、唯一「宿泊費」だけが前年比で増加となり、平成 30 年度以降でみると増加傾向となっている。

2　年代別入込割合

（表 2-1）年代別旅行者割合（上段：件　下段：％）［ H29～R2 年 ］

	H29年 (n=2,696)	H30年 (n=2,657)	R元年 (n=2,912)	R2年 (n=2,656)	対前年比 R2年／R元年
10　　代	29	24	30	20	80.0%
	1.1	0.9	1.0	0.8	
20　　代	356	363	325	379	127.7%
	13.2	13.7	11.2	14.3	
30　　代	581	552	570	487	93.4%
	21.5	20.8	19.6	18.3	
40　　代	638	629	702	654	102.1%
	23.7	23.7	24.1	24.6	
50　　代	541	623	658	601	100.0%
	20.1	23.4	22.6	22.6	
60代以上	551	466	627	515	90.2%
	20.4	17.5	21.5	19.4	

（図 2-2）年代別旅行者割合（％）［ H29～R2 年 ］



（表 2-1 参考①）年代別性別旅行者割合（上段：件　下段：%）［ H30～R2 年 ］

	H30年 (n=2,657)		R元年 (n=2,912)		R2年 (n=2,656)	
	男	女	男	女	男	女
10　代	14	10	16	14	13	7
	58.3	41.7	53.3	46.7	65.0	35.0
20　代	189	174	171	154	252	127
	52.1	47.9	52.6	47.4	66.5	33.5
30　代	305	247	364	206	316	171
	55.2	44.8	63.9	36.1	64.9	35.1
40　代	401	228	458	244	445	209
	63.7	36.3	65.2	34.8	68.0	32.0
50　代	431	192	452	206	411	190
	69.2	30.8	68.7	31.3	68.4	31.6
60代以上	322	144	407	220	383	132
	69.1	30.9	64.9	35.1	74.4	25.6
計	1,662	995	1,868	1,044	1,820	836
	62.5	37.5	64.1	35.9	68.5	31.5

年代別旅行者割合（P15：表 2-1）をみると、40 代が 24.6%と最も多く、次いで 50 代が 22.6%、60 代以上が 19.4%と続いている。前年と比べ 20 代と 40 代が増加し、50 代が横ばい、その他の年代が減少している。

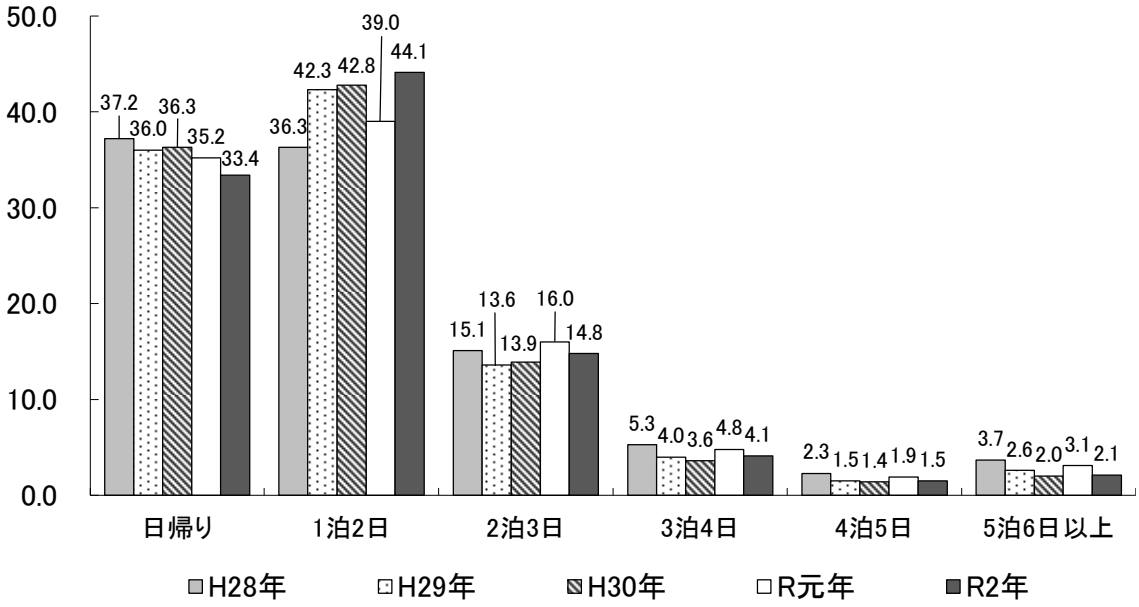
男女比は、男性が 68.5%、女性が 31.5%となっており、すべての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3　日帰り客と宿泊客割合

（表 3-1）年次別日帰り客・宿泊客割合（上段：件　下段：%）［ H28～R2 年 ］

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
H28年	1,106	1,079	449	157	67	118
(n=2,976)	37.2	36.3	15.1	5.3	2.3	3.7
H29年	971	1,141	367	107	41	69
(n=2,696)	36.0	42.3	13.6	4.0	1.5	2.6
H30年	964	1,138	370	97	36	52
(n=2,657)	36.3	42.8	13.9	3.6	1.4	2.0
R元年	1,026	1,135	466	140	54	91
(n=2,912)	35.2	39.0	16.0	4.8	1.9	3.1
R2年	888	1,172	393	108	39	56
(n=2,656)	33.4	44.1	14.8	4.1	1.5	2.1

（図 3-2）年次別日帰り客・宿泊客割合（%）［ H28～R2 年 ］



日帰り客と宿泊客の割合（P17：表 3-1）をみると、「１泊２日」が 44.1%と最も多く、次いで「日帰り」が 33.4%、「２泊３日」が 14.8%と続いている。

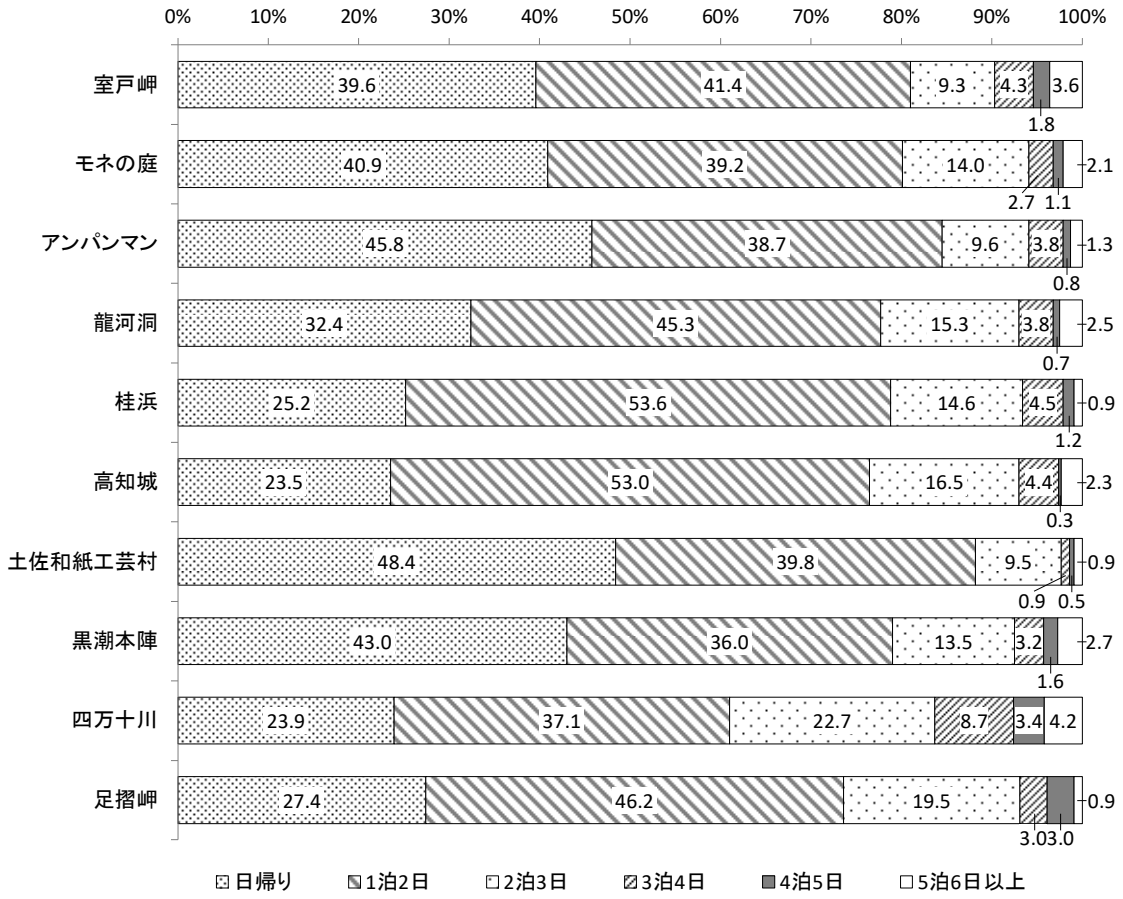
前年と比べ「１泊２日」が 5.1 ポイント増加しており、「日帰り」が 1.8 ポイント、「２泊３日」が 1.2 ポイント、「５泊６日以上」が 1.0 ポイントなどと減少している。平成 28 年の調査から通してみると、「１泊２日」の割合は過去最大、「日帰り」は過去最小となっている。

（表 3-3）四季別日帰り客・宿泊客割合（上段：件　下段：%）［Ｒ元、R2 年 ］

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R元年	232	227	102	34	19	45
		35.2	34.4	15.5	5.2	2.9	6.8
	R2年	211	293	108	38	14	25
		30.6	42.5	15.7	5.5	2.1	3.6
春	R元年	278	268	101	19	7	14
		40.5	39.0	14.7	2.8	1.0	2.0
	R2年	245	281	71	21	8	10
		38.5	44.2	11.2	3.3	1.2	1.6
夏	R元年	268	345	144	51	17	21
		31.7	40.8	17.0	6.0	2.0	2.5
	R2年	205	279	124	38	11	9
		30.8	41.9	18.6	5.7	1.7	1.3
秋	R元年	248	295	119	36	11	11
		34.5	41.0	16.5	5.0	1.5	1.5
	R2年	227	319	90	11	6	12
		34.1	48.0	13.5	1.7	0.9	1.8

四季別データを前年と比べると、冬季は「１泊２日」が 8.1 ポイントと大きく増加し、「日帰り」や「５泊６日以上」などが減少となっている。春季は「１泊２日」が 5.2 ポイント増加した一方で、「２泊３日」が 3.5 ポイント、「日帰り」が 2.0 ポイントの減少などとなっている。夏季は「２泊３日」が 1.6 ポイント、「１泊２日」が 1.1 ポイントの増加、「５泊６日以上」が 1.2 ポイントの減少などと小幅な変動となっている。秋季は「１泊２日」が 7.0 ポイントと大きく増加し、「３泊４日」が 3.3 ポイント、「２泊３日」が 3.0 ポイントの減少となっている。

（図 3-4）調査地別日帰り客・宿泊客割合（%）［ R2 年 ］



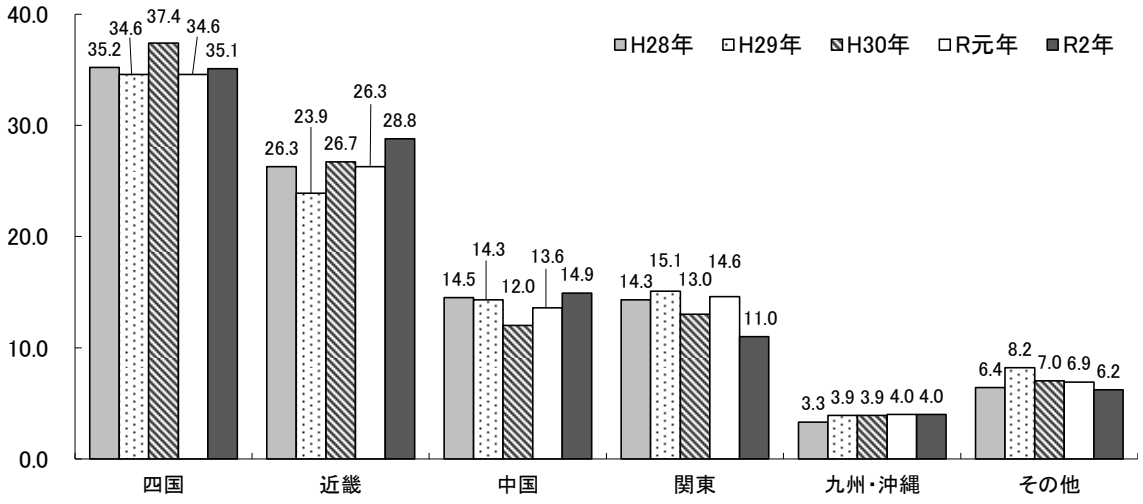
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合は土佐和紙工芸村が 48.4%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが 45.8%、黒潮本陣が 43.0%と続いている。また、「１泊２日」は桂浜が 53.6%と最も多く、次いで高知城が 53.0%、足摺岬が 46.2%と続いている。そのほか、「２泊３日」以上の日程では四万十川が最も多くなっている。

4　発地ブロック別入込割合

（表 4-1）発地ブロック別入込割合（上段：件　下段：%）［ H28～R2 年 ］

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
H28年	1,047	782	432	426	98	191
(n=2,976)	35.2	26.3	14.5	14.3	3.3	6.4
H29年	932	645	386	407	104	222
(n=2,696)	34.6	23.9	14.3	15.1	3.9	8.2
H30年	995	710	318	345	103	186
(n=2,657)	37.4	26.7	12.0	13.0	3.9	7.0
R元年	1,008	767	396	424	117	200
(n=2,912)	34.6	26.3	13.6	14.6	4.0	6.9
R2年	933	764	395	292	106	166
(n=2,656)	35.1	28.8	14.9	11.0	4.0	6.2

（図 4-2）発地ブロック別入込割合（%）［ H28～R2 年 ］



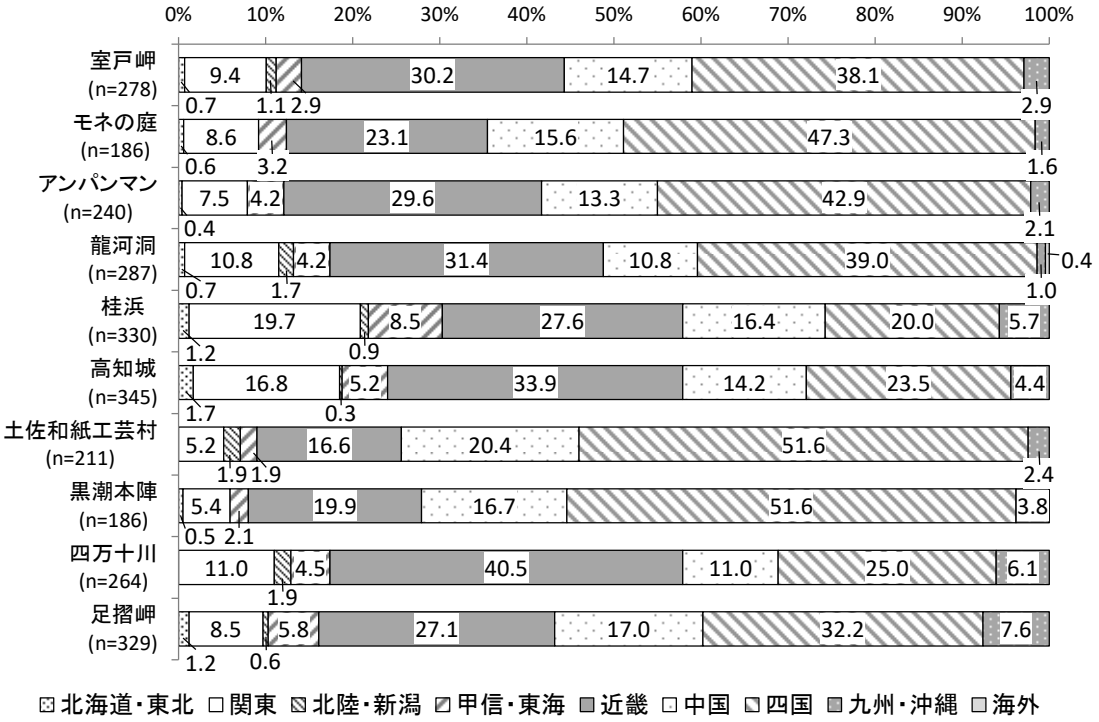
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 35.1%と最も多く、次いで近畿が 28.8%、中国が 14.9%と続いている。

前年と比べると、近畿が 2.5 ポイント、中国が 1.3 ポイント増加しており、関東が 3.6 ポイント、その他が 0.7 ポイント減少している。平成 28 年の調査から通してみると、近畿と中国の割合は過去最大となっており、関東は過去最小となっている。

（表 4-1 参考①）発地ブロック別入込割合（上段：件　下段：%）［ H28～R2 年　全地区データ ］

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
H28年	1,047	782	432	426	98	127	28	15	10	11
(n=2,976)	35.2	26.3	14.5	14.3	3.3	4.3	0.9	0.5	0.3	0.4
H29年	932	645	386	407	104	152	15	21	11	23
(n=2,696)	34.6	23.9	14.3	15.1	3.9	5.6	0.6	0.8	0.4	0.8
H30年	995	710	318	345	103	123	20	20	17	6
(n=2,657)	37.4	26.7	12.0	13.0	3.9	4.6	0.8	0.8	0.6	0.2
R元年	1,008	767	396	424	117	127	21	18	23	11
(n=2,912)	34.6	26.3	13.6	14.6	4.0	4.4	0.7	0.6	0.8	0.4
R2年	933	764	395	292	106	121	23	11	10	1
(n=2,656)	35.1	28.8	14.9	11.0	4.0	4.5	0.9	0.4	0.4	0.0

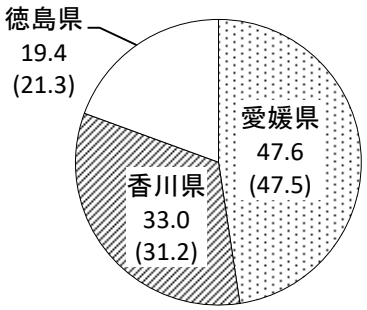
（表 4-1 参考②）調査地別発地ブロック別入込割合（%）［ R2 年 ］



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると（P21：表 4-1 参考②、P23：表 4-1 参考③）、桂浜と高知城と四万十川は近畿・四国、土佐和紙工芸村は四国・中国、その他の 6 地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣 3 ブロック合計で占める割合は、土佐和紙工芸村が 88.6%と最も多く、次いで黒潮本陣が 88.2%、モネの庭が 86.0%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が 51.5%と最も多く、次いで高知城が 50.7%、桂浜が 47.3%と続いている。

（図 4-3）ブロック別・四国（%）

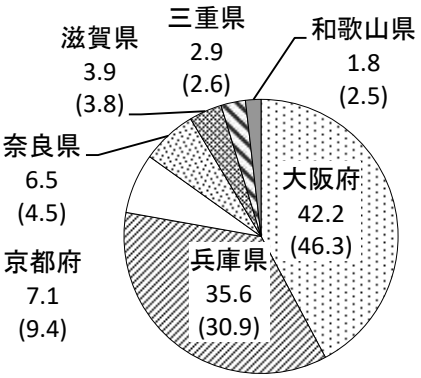


（　）内の数値はＲ元年

前年と比べ、香川が 1.8 ポイント、愛媛が 0.1 ポイント増加しており、徳島が 1.9 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で１位、また土佐和紙工芸村など５つの調査地において入込割合の１位となっている。香川は全体の３位、龍河洞など４地点で２位となっている。徳島は全体の６位、室戸岬とモネの庭で１位となっている（P23：表 4-1 参考③）。

（図 4-4）ブロック別・近畿（%）

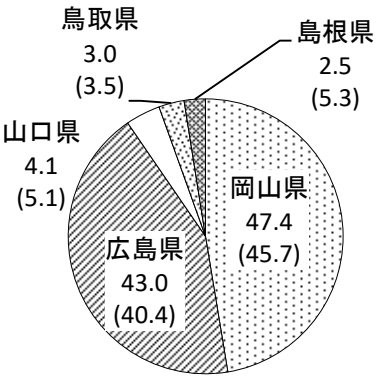


（　）内の数値はＲ元年

前年と比べ、兵庫が 4.7 ポイント、奈良が 2.0 ポイント、三重が 0.3 ポイント、滋賀が 0.1 ポイント増加しており、大阪が 4.1 ポイント、京都が 2.3 ポイント、和歌山が 0.7 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 77.8%と、近畿ブロックの４分の３を占めている。

大阪は全体の入込割合で２位、桂浜と四万十川で１位、３地点で２位となっており、兵庫は全体の４位、高知城で１位、足摺岬で２位となっている（P23：表 4-1 参考③）。

（図 4-5）ブロック別・中国（%）



（　）内の数値はＲ元年

前年と比べ、広島が 2.6 ポイント、岡山が 1.7 ポイント増加しており、島根が 2.8 ポイント、山口が 1.0 ポイント、鳥取が 0.5 ポイント減少となっている。岡山と広島の２県で 90.4%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で５位、広島は全体の７位となっている（P23：表 4-1 参考③）。

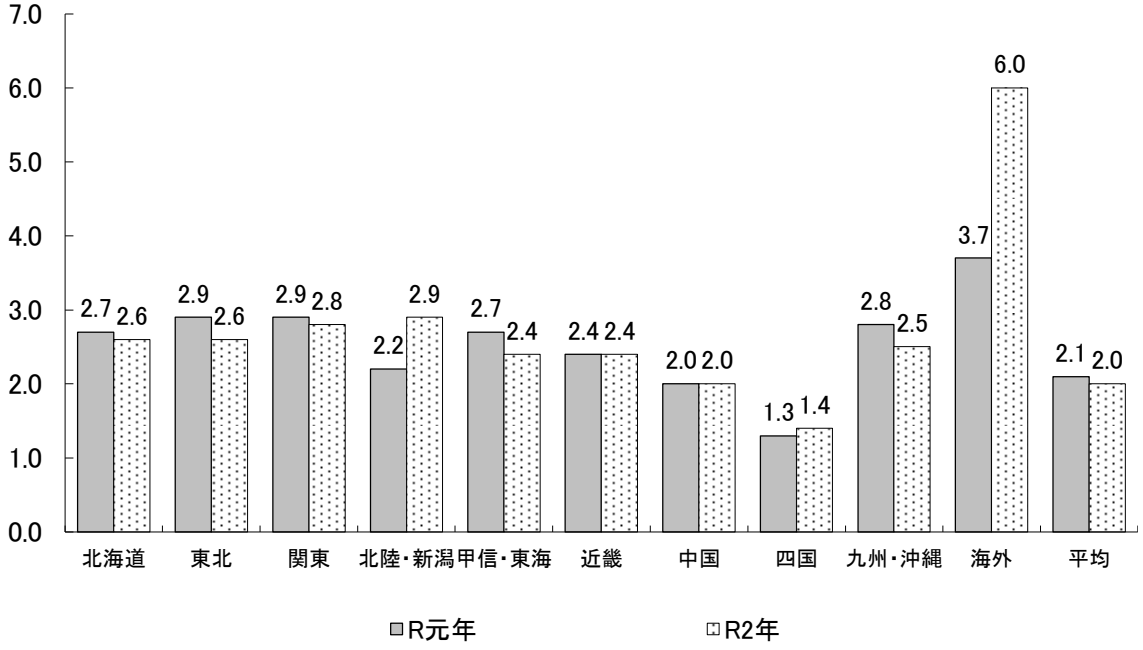
（表 4-1 参考③）調査地別発地都道府県入込割合（件）［ R2 年 ］

		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		278	186	240	287	330	345	211	186	264	329	2,656	－
北海道・東北	北海道	2	1	0	1	2	2	0	1	0	1	10	
	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	岩手県	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	
	宮城県	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	
	秋田県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
	山形県	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
	福島県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
北海道・東北 計		2	1	1	2	4	6	0	1	0	4	21	－
関東	茨城県	1	0	0	1	1	3	0	0	0	0	6	
	栃木県	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4	
	群馬県	1	2	0	0	2	0	0	0	0	1	6	
	埼玉県	3	2	2	5	2	7	1	1	4	2	29	
	千葉県	4	3	3	3	9	6	1	5	8	1	43	
	東京都	11	4	8	11	29	35	5	1	8	16	128	8
	神奈川県	6	5	5	11	20	7	3	3	8	8	76	10
関東 計		26	16	18	31	65	58	11	10	29	28	292	－
北陸・新潟	新潟県	1	0	0	0	1	0	0	0	4	1	7	
	富山県	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	6	
	石川県	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	5	
	福井県	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	5	
北陸・新潟 計		3	0	0	5	3	1	4	0	5	2	23	－
甲信・東海	山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	長野県	1	0	1	0	4	1	0	0	0	2	9	
	岐阜県	1	3	1	0	2	2	1	2	2	1	15	
	静岡県	0	0	1	3	3	2	0	0	4	1	14	
	愛知県	6	3	7	9	19	13	3	2	6	14	82	9
甲信・東海 計		8	6	10	12	28	18	4	4	12	19	121	－
近畿	三重県	5	1	2	2	3	2	1	0	1	5	22	
	滋賀県	6	2	1	2	6	1	3	0	5	4	30	
	京都府	6	3	2	9	7	10	3	2	3	9	54	
	大阪府	35	20	34	32	43	45	12	17	53	31	322	2
	兵庫県	25	14	26	40	24	48	13	16	34	32	272	4
	奈良県	6	3	6	3	6	8	3	1	8	6	50	
	和歌山県	1	0	0	2	2	3	0	1	3	2	14	
近畿 計		84	43	71	90	91	117	35	37	107	89	764	－
中国	鳥取県	3	1	3	3	0	2	0	0	0	0	12	
	島根県	1	1	0	2	2	0	1	0	0	3	10	
	岡山県	19	17	17	18	26	22	20	15	14	19	187	5
	広島県	16	9	11	8	23	24	21	13	13	32	170	7
	山口県	2	1	1	0	3	1	1	3	2	2	16	
中国 計		41	29	32	31	54	49	43	31	29	56	395	－
四国	徳島県	48	31	18	22	13	13	3	10	6	17	181	6
	香川県	33	28	32	42	29	36	23	38	19	28	308	3
	愛媛県	25	29	53	48	24	32	83	48	41	61	444	1
四国 計		106	88	103	112	66	81	109	96	66	106	933	－
九州・沖縄	福岡県	1	2	3	2	10	6	3	2	9	18	56	11
	佐賀県	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	5	
	長崎県	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	5	
	熊本県	2	0	1	0	1	0	1	1	3	3	12	
	大分県	2	1	1	0	3	4	1	1	3	3	19	
	宮崎県	0	0	0	0	2	0	0	3	0	1	6	
	鹿児島県	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
	沖縄県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
九州・沖縄 計		8	3	5	3	19	15	5	7	16	25	106	－
海外		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	－
高知県		122	214	160	113	70	55	189	214	136	71	1,344	－

5　旅行日数

5.1　発地ブロック別県内旅行日数

（図 5-1）発地ブロック別県内旅行日数（日）［ R 元、R2 年 ］



県内旅行日数の平均は、前年と比べ 0.1 日減少の 2.0 日となっている。

サンプル数の少ない海外を除いて発地ブロック別にみると、北陸・新潟が 2.9 日で最も多く、次いで関東が 2.8 日、北海道と東北が 2.6 日と続いている。前年と比べ、北陸・新潟と四国が増加しており、近畿と中国は横ばい、その他の発地ブロックは減少となっている。

5.2　年代別旅行日数

（表 5-2）年代別県内旅行日数〔 加重平均※ 〕(日)［ H28～R2 年 ］

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
10　　代	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1
20　　代	2.1	2.0	2.1	2.2	2.0
30　　代	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1
40　　代	2.2	2.0	2.0	2.3	2.1
50　　代	2.1	1.9	1.9	2.0	2.0
60代以上	2.1	2.1	1.9	2.0	2.0
全　　体	2.1	2.0	2.0	2.1	2.0

年代別の県内旅行日数は、10 代、30 代、40 代が 2.1 日、その他の年代が 2.0 日となっている。

前年と比べ、20 代と 40 代が 0.2 日減少、その他の年代は横ばいとなっている。

※加重平均：平均値を算出する際に、量の大小を反映させる方法

6　旅行形態別旅行目的割合

（表 6-1）旅行形態別旅行目的割合（%）［ H30～R2 年 ］

		自然見物・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏霊場巡り	買い物	名所旧跡観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	H30年	16.5	1.4	2.5	2.5	1.1	4.6	6.3	1.1	14.0	18.4	29.1	2.5
	R元年	16.1	3.7	3.2	5.7	0.0	7.7	8.2	1.0	14.7	16.9	20.6	2.2
	R2年	18.1	1.9	1.4	2.2	0.5	9.4	8.6	1.6	19.1	21.3	14.3	1.6
家族	H30年	21.3	4.7	0.7	2.9	0.3	16.9	3.4	2.0	27.9	6.5	11.5	1.9
	R元年	20.3	4.8	3.4	4.1	0.5	18.3	4.0	2.8	26.9	2.9	10.4	1.6
	R2年	18.9	4.2	0.6	4.2	0.2	20.3	5.4	3.2	28.7	3.7	9.6	1.0
友人知人	H30年	19.5	3.9	1.4	4.4	0.2	28.0	2.1	0.9	22.5	11.1	4.6	1.4
	R元年	20.5	5.6	4.9	7.6	0.0	23.2	1.0	1.5	20.8	9.5	3.7	1.7
	R2年	24.1	2.6	0.0	7.7	0.6	24.9	2.9	1.4	18.6	14.6	2.3	0.3
団体	H30年	26.5	29.4	0.0	0.0	2.9	11.8	0.0	0.0	23.6	2.9	0.0	2.9
	R元年	14.6	16.7	2.1	0.0	0.0	12.5	2.1	0.0	16.7	0.0	27.0	8.3
	R2年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0
その他	H30年	6.1	6.1	0.0	0.0	0.0	15.2	0.0	0.0	18.1	6.1	30.3	18.1
	R元年	11.5	3.9	7.7	11.5	0.0	19.2	0.0	0.0	19.2	3.9	23.1	0.0
	R2年	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.4	0.0	27.3	0.0
全体	H30年	20.2	4.5	1.1	3.0	0.4	16.9	3.5	1.7	24.9	8.8	12.9	2.1
	R元年	19.6	5.0	3.6	4.8	0.4	17.4	4.1	2.3	24.1	5.7	11.2	1.8
	R2年	19.5	3.7	0.6	4.3	0.3	19.3	5.5	2.7	26.1	7.6	9.4	1.0

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡・観光施設」が前年から 2.0 ポイント増加の 26.1%で最も多く、次いで「自然見物・町歩き」が 0.1 ポイント減少の 19.5%、「食べ物」が 1.9 ポイント増加の 19.3%と続いている。

平成 30 年の調査から通してみると、「食べ物」「神仏・霊場巡り」「買い物」「名所旧跡・観光施設」は過去最大、「自然見物・町歩き」「休養・慰安」「イベント」「スポーツ」「帰省・仕事」は過去最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「名所旧跡・観光施設」と「なんとなく（ドライブを含む）」が 4.4 ポイント増加、「帰省・仕事」が 6.3 ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「食べ物」が 2.0 ポイント増加、「イベント」が 2.8 ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「なんとなく（ドライブを含む）」が 5.1 ポイント増加、「イベント」が 4.9 ポイント減少、“団体”では、「帰省・仕事」が 48.0 ポイント増加、「休養・慰安」が 16.7 ポイント減少となっている。

7　入込利用交通機関割合

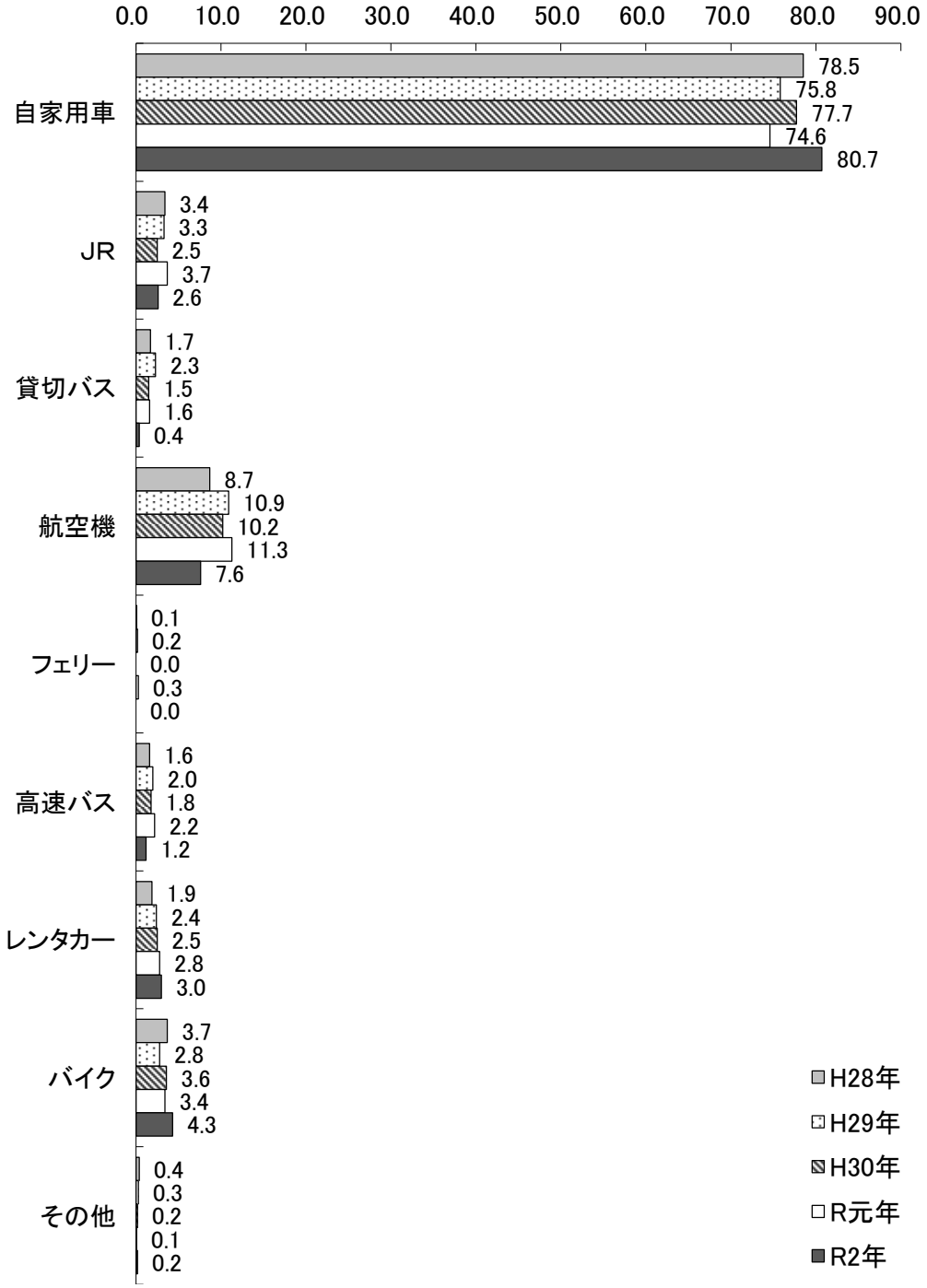
（表 7-1）入込利用交通機関別割合（上段：件　下段：%）［ H28～R2 年 ］

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
H28年	2,337	99	49	260	3	48	57	110	13
(n=2,976)	78.5	3.4	1.7	8.7	0.1	1.6	1.9	3.7	0.4
H29年	2,044	90	61	294	4	54	65	75	9
(n=2,696)	75.8	3.3	2.3	10.9	0.2	2.0	2.4	2.8	0.3
H30年	2,064	65	40	270	0	49	67	97	5
(n=2,657)	77.7	2.5	1.5	10.2	0.0	1.8	2.5	3.6	0.2
R元年	2,173	106	46	330	8	66	82	98	3
(n=2,912)	74.6	3.7	1.6	11.3	0.3	2.2	2.8	3.4	0.1
R2年	2,144	70	9	202	1	31	80	115	4
(n=2,656)	80.7	2.6	0.4	7.6	0.0	1.2	3.0	4.3	0.2

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から 6.1 ポイント増加の 80.7%で最も多く、次いで「航空機」が 3.7 ポイント減少の 7.6%、「バイク」が 0.9 ポイント増加の 4.3%と続いている。

平成 28 年の調査から通してみると、「自家用車」「レンタカー」「バイク」は過去最大、「貸切バス」「航空機」「高速バス」は過去最小となっている。

（図 7-2）入込利用交通機関別割合（%）［ H28～R2 年 ］



8　旅行形態割合

（表 8-1）年代別旅行形態割合（%）［ R 元、R2 年 ］

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10　　代	R元年 (n=30)	10.0	70.0	20.0	0.0	0.0
	R2年 (n=20)	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0
20　　代	R元年 (n=325)	15.4	38.1	43.7	2.5	0.3
	R2年 (n=379)	16.4	38.5	44.8	0.0	0.3
30　　代	R元年 (n=570)	11.8	71.7	13.9	1.2	1.4
	R2年 (n=487)	10.9	74.3	14.6	0.2	0.0
40　　代	R元年 (n=702)	12.3	77.1	9.2	1.0	0.4
	R2年 (n=654)	13.8	79.8	5.8	0.3	0.3
50　　代	R元年 (n=658)	15.1	74.5	7.9	1.5	1.0
	R2年 (n=601)	14.1	79.0	6.2	0.0	0.7
60代以上	R元年 (n=627)	15.6	70.3	10.4	2.6	1.1
	R2年 (n=515)	15.3	78.5	5.2	0.2	0.8
全　　体	R元年 (n=2,912)	13.8	69.6	14.0	1.7	0.9
	R2年 (n=2,656)	14.0	72.3	13.1	0.2	0.4

旅行形態割合をみると、「家族」が 72.3%で最も多く、次いで「１人」が 14.0%、「友人知人」が 13.1%、「その他」が 0.4%、「団体」が 0.2%と続いている。

前年と比べ、「家族」が 2.7 ポイント、「１人」が 0.2 ポイント増加しており、「団体」が 1.5 ポイント、「友人知人」が 0.9 ポイント、「その他」が 0.5 ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代をのぞくすべての年代で「家族」が最も多く、20 代は「友人知人」が最も多くなっている。

（表 8-2）年代別同行者数割合（%）［ R2 年、R 元年 ］

		1人	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上
10　　代	R元年 (n=30)	10.0	50.0	23.3	16.7	0.0
	R2年 (n=20)	10.0	65.0	25.0	0.0	0.0
20　　代	R元年 (n=325)	15.4	66.1	14.5	3.4	0.6
	R2年 (n=379)	16.4	66.2	15.0	2.4	0.0
30　　代	R元年 (n=570)	11.8	51.2	28.9	6.7	1.4
	R2年 (n=487)	10.9	57.9	27.3	3.7	0.2
40　　代	R元年 (n=702)	12.3	57.3	26.6	3.1	0.7
	R2年 (n=654)	13.8	57.8	25.7	2.4	0.3
50　　代	R元年 (n=658)	15.1	68.7	13.0	2.0	1.2
	R2年 (n=601)	14.1	71.7	12.3	1.7	0.2
60代以上	R元年 (n=627)	15.6	60.4	15.0	6.4	2.6
	R2年 (n=515)	15.3	65.8	13.4	4.5	1.0
全　　体	R元年 (n=2,912)	13.8	60.3	20.1	4.4	1.4
	R2年 (n=2,656)	14.0	63.8	19.0	2.9	0.3

同行者数割合をみると、「2～3 人」が 63.8%で最も多く、次いで「4～5 人」が 19.0%、「１人」が 14.0%、「6～10 人」が 2.9%、「11 人以上」が 0.3%と続いている。

前年と比べ、「2～3 人」が 3.5 ポイント、「１人」が 0.2 ポイント増加しており、「6～10 人」が 1.5 ポイント、「4～5 人」と「11 人以上」が 1.1 ポイント減少となっている。

年代別にみると、すべての年代で「2～3 人」が最も多くなっている。

（表 8-3） 年代別旅行形態・同行者数割合（件）［ R2 年 ］

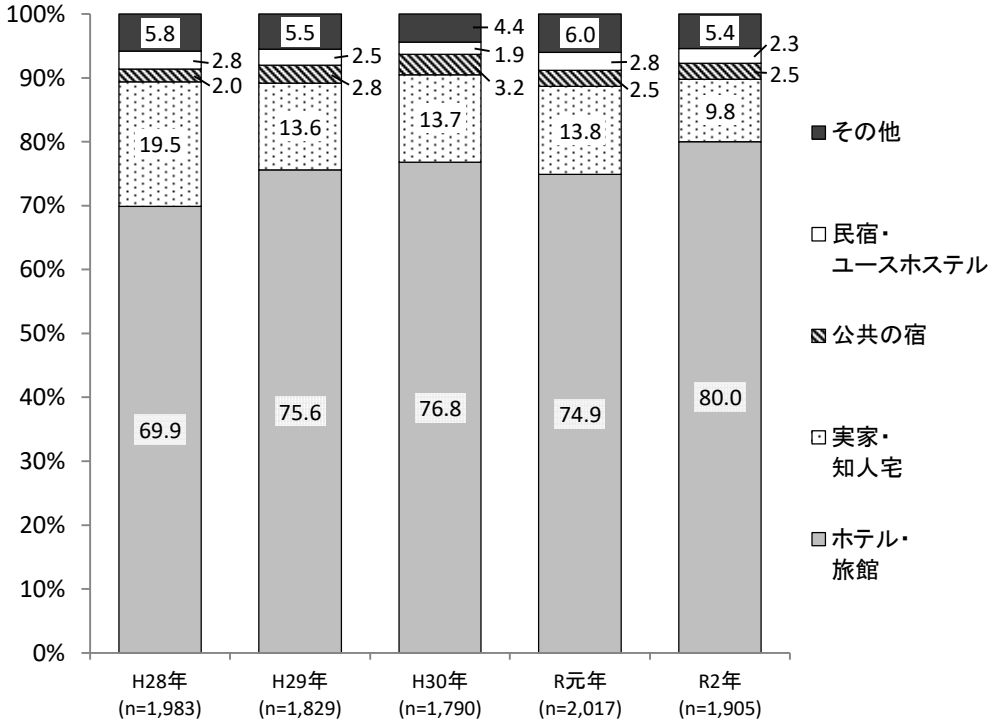
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上
10　代	2	7	5			6											
20　代	62	110	30	6		140	27	3						1			
30　代	53	216	127	18	1	66	5				1						
40　代	90	342	165	14	1	34	3	1		1			1	1		1	
50　代	85	397	70	8		31	4	2						3			1
60代以上	79	319	62	20	3	17	7	3		1				2			2

年代別に旅行形態と同行者数の関係をみると、20 代を除くすべての年代は「2～3 人の家族」が最も多く、20 代は「2～3 人の友人知人」が最も多くなっている。

9　宿泊施設割合

9.1　年間

（図 9-1）県内利用宿泊施設割合（%）［ H28～R2 年 ］



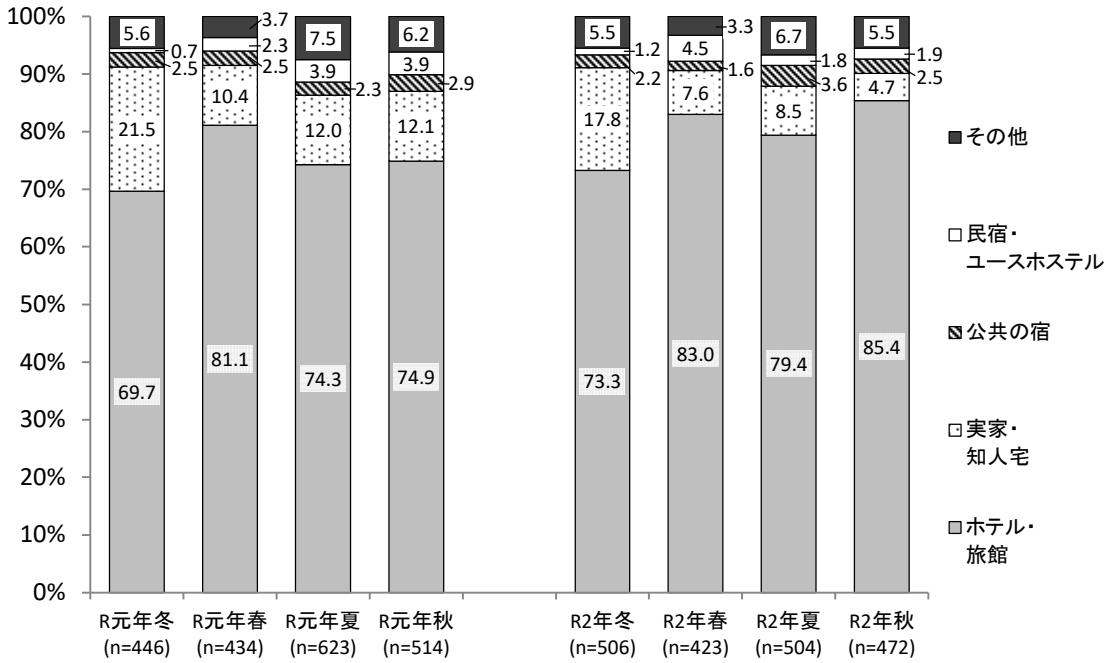
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が 80.0%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が 9.8%、「その他」が 5.4%、「公共の宿」が 2.5%、「民宿・ユースホステル」が 2.3%と続いている。

前年と比べ、「ホテル・旅館」が 5.1 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 4.0 ポイント、「その他」が 0.6 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 0.5 ポイント減少している。

平成 28 年の調査から通してみると、「ホテル・旅館」は過去最大、「実家・知人宅」は過去最小となっている。

9.2　四季別

（図 9-2）四季別県内利用宿泊施設割合（%）［ R 元、R2 年 ］



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、すべての調査時期で「ホテル・旅館」の割合が増加し、「実家・知人宅」が減少となっている。

前年と比べ、1.0 ポイントを超えて変動している項目をみると、冬季は「ホテル・旅館」が 3.6 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 3.7 ポイント減少となっている。

春季は「民宿・ユースホステル」が 2.2 ポイント、「ホテル・旅館」が 1.9 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 2.8 ポイント減少となっている。

夏季は「ホテル・旅館」が 5.1 ポイント、「公共の宿」が 1.3 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 3.5 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 2.1 ポイント減少となっている。

秋季は「ホテル・旅館」が 10.5 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 7.4 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 2.0 ポイント減少となっている。

9.3　年代別宿泊施設割合

（表 9-3）年代別県内利用宿泊施設割合（%）［ R 元、R2 年 ］

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10　代	R元年 (n=18)	72.2	22.2	0.0	5.6	0.0
	R2年 (n=15)	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0
20　代	R元年 (n=236)	77.1	15.7	0.9	2.1	4.2
	R2年 (n=280)	80.7	7.9	1.1	2.1	8.2
30　代	R元年 (n=410)	71.7	13.4	3.7	4.4	6.8
	R2年 (n=365)	76.7	13.7	2.5	2.2	4.9
40　代	R元年 (n=527)	70.9	17.3	2.5	3.2	6.1
	R2年 (n=485)	80.6	9.3	3.7	1.9	4.5
50　代	R元年 (n=439)	81.1	9.1	2.7	2.3	4.8
	R2年 (n=415)	81.2	9.6	1.2	1.7	6.3
60代以上	R元年 (n=387)	75.4	13.2	2.3	1.6	7.5
	R2年 (n=345)	82.0	6.6	3.8	3.8	3.8

年代別利用宿泊施設割合をみると、すべての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

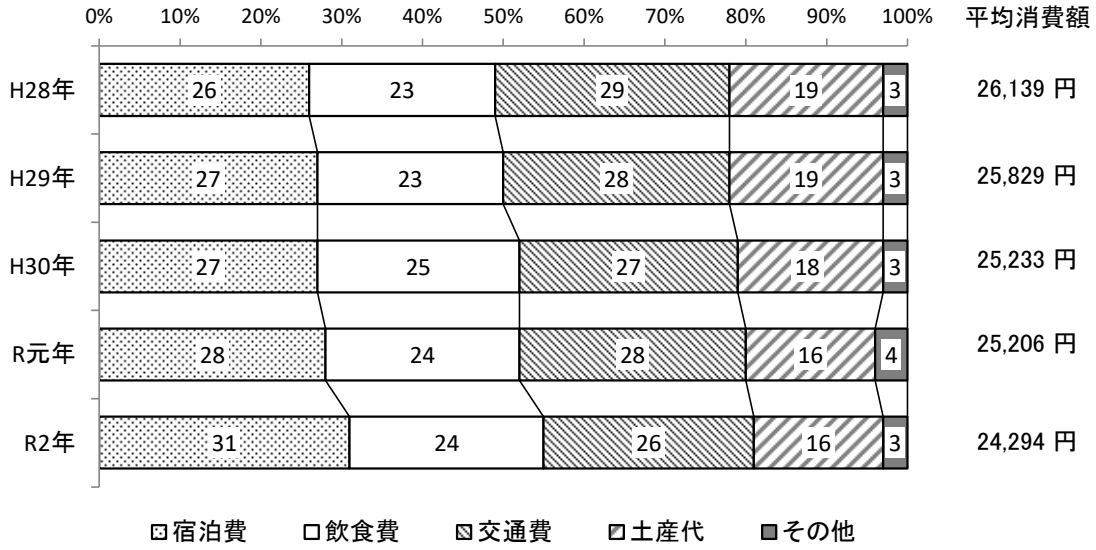
前年と比べ、5.0 ポイントを超えて増加している項目は、10 代の「実家・知人宅」、40 代と 60 代以上の「ホテル・旅館」となっている。その一方で減少している項目は、10 代の「ホテル・旅館」と「民宿・ユースホステル」、20 代・40 代・60 代以上の「実家・知人宅」となっている。

10　県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1　年間

（図 10-1）　県内消費額費目別割合（%）、同平均消費額（円）［ H28～R2 年 ］



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 912 円の減少の 24,294 円となっている。費目別でみると、「宿泊費」が 31%と最も多く、次いで「交通費」が 26%、「飲食費」が 24%と続いている。

（図 10-1 参考①）県内平均消費額費目別内訳（円）［ H30～R2 年 ］

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
H30年	6,749	6,202	6,861	4,640	781	25,233
R元年	6,997	6,210	7,047	3,997	955	25,206
R2年	7,455	5,960	6,245	3,780	854	24,294

費目別の平均消費額を前年と比べると、「宿泊費」が 458 円増加し、「交通費」が 802 円、「飲食費」が 250 円、「土産代」が 217 円、「その他」が 101 円減少となっている。

平成 30 年の調査から通してみると、「宿泊費」は過去最大、「飲食費」「交通費」「土産代」は過去最小となっている。

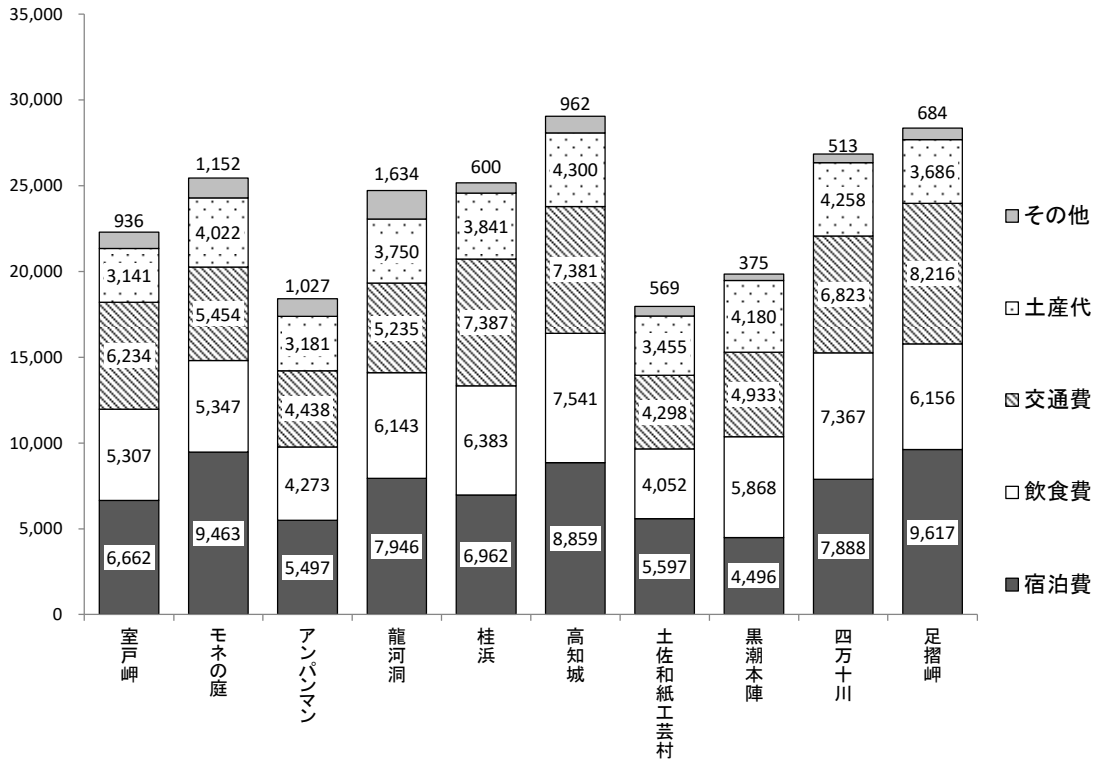
（図 10-1 参考②）調査地別県内平均消費額（円）［ R 元、R2 年 ］

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R元年	22,718	25,600	18,755	23,384	28,176	30,631	25,744	18,597	29,585	26,280
R2年	22,280	25,438	18,416	24,708	25,173	29,043	17,971	19,852	26,849	28,359
前年との差	▲ 438	▲ 162	▲ 339	1,324	▲ 3,003	▲ 1,588	▲ 7,773	1,255	▲ 2,736	2,079

調査地別の年間平均消費額をみると、「高知城」が 29,043 円で最も高く、次いで「足摺岬」が 28,359 円、「四万十川」が 26,849 円と続いており、「土佐和紙工芸村」が 17,971 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「足摺岬」が 2,079 円、「龍河洞」が 1,324 円の増加となっており、その一方で「土佐和紙工芸村」が 7,773 円、「桂浜」が 3,003 円の減少となっている。

（図 10-1 参考③）調査地別県内平均消費額費目別内訳（円）［ R2 年 ］



調査地別に費目別の平均消費額をみると、桂浜では「交通費」が、黒潮本陣では「飲食費」が、その他の調査地では「宿泊費」が最も多くなっている。

（参考）県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R2		R2−R1（対R元増減率）		R1		R1−H30（対H30増減率）		H30		H30−H29（対H29増減率）		H29		H29−H28（対H28増減率）	
県外観光客総数(人)	2,667,823		▲ 1,720,525	▲ 39.2%	4,388,348		▲ 24,223	▲ 0.5%	4,412,571		6,208	0.1%	4,406,363		162,825	3.8%
	客船以外	客船（乗船客数）	（客船以外）		客船以外	客船（乗船客数）	（客船以外）		客船以外	客船（乗船客数）	（客船以外）		客船以外	客船（乗船客数）	（客船以外）	
	Ⓐ 2,667,031	792	▲ 1,664,575	▲ 38.4%	Ⓐ 4,331,606	56,742	▲ 52	▲ 0.0%	Ⓐ 4,331,658	80,913	29,155	0.7%	Ⓐ 4,302,503	103,860	120,398	2.9%
県外観光客一人当たり消費額（円）	Ⓑ 客船除く	24,294	▲ 912	▲ 3.6%	Ⓑ 客船除く	25,206	▲ 27	▲ 0.1%	Ⓑ 客船除く	25,233	▲ 596	▲ 2.3%	Ⓑ 客船除く	25,829	▲ 310	▲ 1.2%
＜内訳＞ 宿泊費		7,455	458	6.5%		6,997	248	3.7%		6,749	▲ 173	▲ 2.5%		6,922	175	2.6%
飲食費		5,960	▲ 250	▲ 4.0%		6,210	8	0.1%		6,202	199	3.3%		6,003	49	0.8%
交通費		6,245	▲ 802	▲ 11.4%		7,047	186	2.7%		6,861	▲ 405	▲ 5.6%		7,266	▲ 493	▲ 6.4%
土　産		3,780	▲ 217	▲ 5.4%		3,997	▲ 643	▲ 13.9%		4,640	▲ 175	▲ 3.6%		4,815	▲ 99	▲ 2.0%
その他		854	▲ 101	▲ 10.6%		955	174	22.3%		781	▲ 42	▲ 5.1%		823	58	7.6%
県外観光客の総消費額（百万円）	客船除く総消費額 Ⓐ×Ⓑ	64,793	▲ 44,389	▲ 40.7%	客船除く総消費額 Ⓐ×Ⓑ	109,182	▲ 118	▲ 0.1%	客船除く総消費額 Ⓐ×Ⓑ	109,301	▲ 1,829	▲ 1.6%	客船除く総消費額 Ⓐ×Ⓑ	111,129	1,813	1.7%
	客船乗船客等による消費	8	▲ 481	▲ 98.4%	客船乗船客等による消費額	489	▲ 646	▲ 56.9%	客船乗船客等による消費額	1,135	▲ 346	▲ 23.4%	客船乗船客等による消費	1,481	631	74.2%
	64,801		▲ 44,870	▲ 40.9%	109,671		▲ 764	▲ 0.7%	110,436		▲ 2,175	▲ 1.9%	112,610		2,444	2.2%
生産誘発効果（百万円）	96,387				168,455				168,728				172,028			
生産誘発倍率（倍）	1.49				1.54				1.53				1.53			

10.1.2 四季別

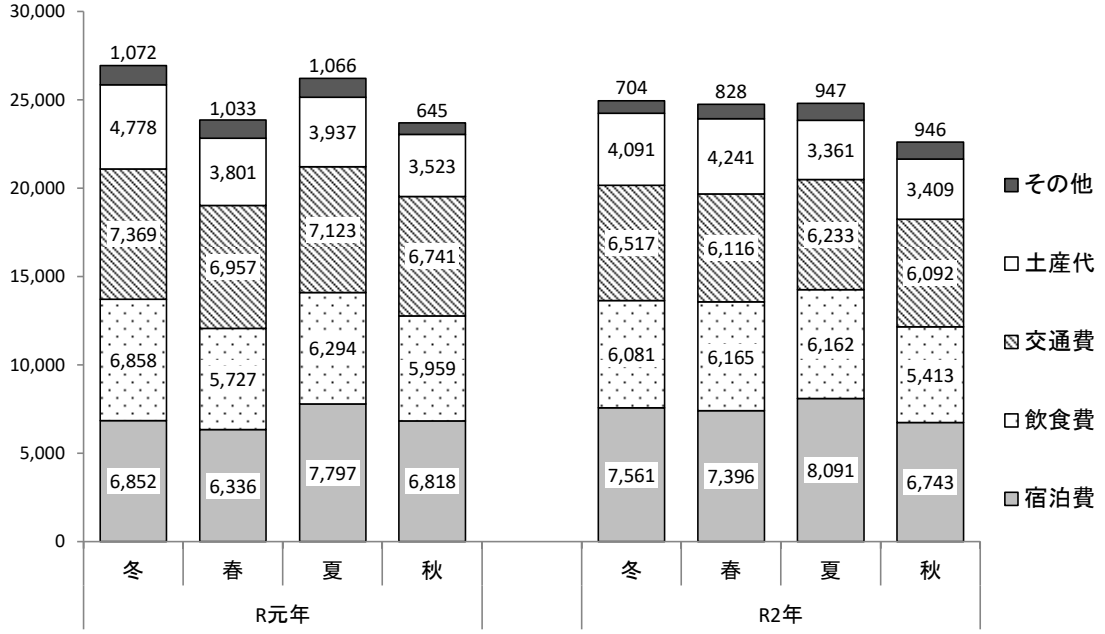
（表 10-2） 四季別県内消費額費目別割合（%）、同平均消費額（円）［ R 元、R2 年 ］

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R元年	25	26	27	18	4	26,929円	▲ 1,975円
	R2年	30	24	26	17	3	24,954円	
春	R元年	27	24	29	16	4	23,854円	892円
	R2年	30	25	25	17	3	24,746円	
夏	R元年	30	24	27	15	4	26,217円	▲ 1,423円
	R2年	32	25	25	14	4	24,794円	
秋	R元年	29	25	28	15	3	23,686円	▲ 1,083円
	R2年	30	24	27	15	4	22,603円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、春季が 892 円の増加となっており、冬季が 1,975 円、夏季が 1,423 円、秋季が 1,083 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」はすべての調査時期で増加、「交通費」はすべての調査時期で減少となっている。「飲食費」は冬季と秋季で減少、春季と夏季は増加となっている。「土産代」は春季で増加、秋季は横ばい、冬季と夏季は減少となっている。「その他」は秋季で増加、夏季は横ばい、冬季と春季は減少となっている。

（図 10-3）四季別県内平均消費額費目別内訳（円）［ R 元、R2 年 ］



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の 8,091 円、「飲食費」が春季の 6,165 円、「交通費」が冬季の 6,517 円、「土産代」が春季の 4,241 円、「その他」が夏季の 947 円となっている。

前年と比べ増加した時季と費目は、冬季の「宿泊費」、春季の「宿泊費」「飲食費」「土産代」、夏季の「宿泊費」、秋季の「その他」となっている。なお、「交通費」はすべての時季で減少となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

（表 10-4） 年代別県内消費額費目別割合（%）、同平均消費額（円）［ R 元、R2 年 ］

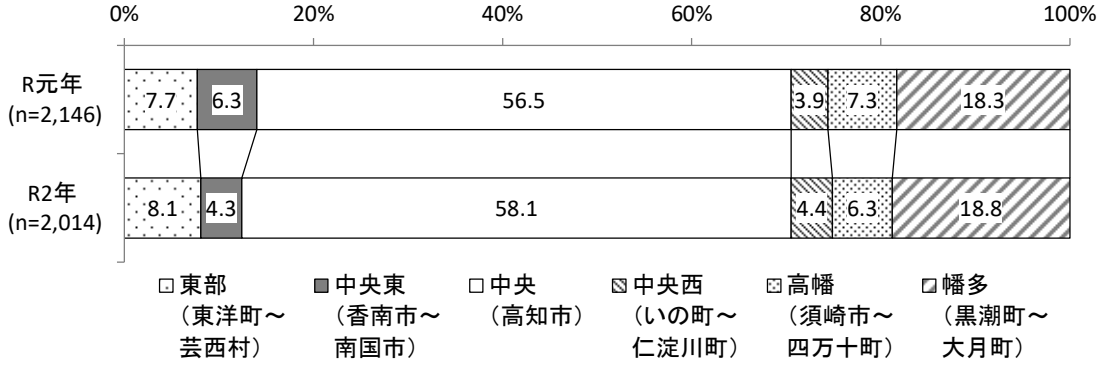
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10　代	R元年	35	21	26	16	2	26,699円	▲ 9,523円
	R2年	17	29	32	17	5	17,176円	
20　代	R元年	24	25	33	14	4	24,656円	▲ 1,437円
	R2年	28	26	28	14	4	23,219円	
30　代	R元年	29	24	27	16	4	24,333円	▲ 1,550円
	R2年	30	25	25	16	4	22,783円	
40　代	R元年	27	25	27	16	5	27,041円	▲ 1,363円
	R2年	32	25	24	15	4	25,678円	
50　代	R元年	30	25	27	15	3	25,032円	▲ 642円
	R2年	28	26	27	16	3	24,390円	
60代以上	R元年	27	24	28	18	3	24,288円	640円
	R2年	34	21	25	16	4	24,928円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、60 代以上が 640 円の増加となっており、10 代が 9,523 円、30 代が 1,550 円、20 代が 1,437 円、40 代が 1,363 円、50 代が 642 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は 10 代と 50 代が減少、その他の年代が増加となっている。「飲食費」は 60 代以上が減少、40 代が横ばい、その他の年代が増加となっている。「交通費」は 10 代が増加、50 代が横ばい、その他の年代が減少となっている。「土産代」は 10 代と 50 代が増加、20 代と 30 代が横ばい、40 代と 60 代以上が減少となっている。「その他」は 10 代と 60 代以上が増加、40 代が減少、その他の年代が横ばいとなっている。

11　宿泊地域割合

（図 11-1）県内宿泊地域割合（%）［ R 元、R2 年 ］



県内での宿泊地域をみると、「中央」が 58.1%で最も高く、次いで「幡多」が 18.8%、「東部」が 8.1%、「高幡」が 6.3%、「中央西」が 4.4%、「中央東」が 4.3%と続いている。

前年と比べ、「中央」が 1.6 ポイント、「中央西」と「幡多」が 0.5 ポイント、「東部」が 0.4 ポイントの増加、「高幡」が 1.0 ポイント、「中央東」が 2.0 ポイントの減少となっている。

（表 11-2）調査地別県内宿泊地域割合（%）［ R2 年 ］

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	**25.9**	4.5	**56.2**	1.0	3.5	8.9
モネの庭	**32.8**	6.3	**44.5**	7.0	0.8	8.6
アンパンマン	10.1	**11.6**	**66.7**	2.9	0.7	8.0
龍河洞	5.6	**11.3**	**69.0**	4.7	2.3	7.1
桂浜	4.9	3.7	**76.9**	4.1	1.1	**9.3**
高知城	1.7	2.1	**83.8**	2.8	3.8	**5.8**
土佐和紙工芸村	3.4	0.8	**59.7**	**23.5**	7.6	5.0
黒潮本陣	3.9	4.7	**44.5**	5.5	**22.7**	18.7
四万十川	2.2	0.9	**28.8**	1.3	11.8	**55.0**
足摺岬	4.0	1.7	**38.8**	2.3	11.4	**41.8**
全体	8.1	4.3	58.1	4.4	6.3	18.8

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると（P41：表 11-2)、桂浜と高知城は「中央」「幡多」の順で、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

（表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合（%）［ R2 年 ］

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	**79.7**	**8.5**	2.3	3.9	5.6
モネの庭	**81.2**	5.5	**6.2**	1.6	5.5
アンパンマン	**82.5**	**12.4**	1.5	0.7	2.9
龍河洞	**85.9**	**10.2**	1.9	1.0	1.0
桂浜	**84.1**	**10.1**	1.2	2.7	1.9
高知城	**89.7**	**6.6**	1.1	0.7	1.9
土佐和紙工芸村	**73.1**	6.7	**10.1**	2.5	7.6
黒潮本陣	**62.1**	**19.0**	6.9	1.7	10.3
四万十川	**65.5**	**20.1**	1.3	1.7	11.4
足摺岬	**83.6**	2.7	0.4	4.9	**8.4**
全体	80.0	9.8	2.5	2.3	5.4

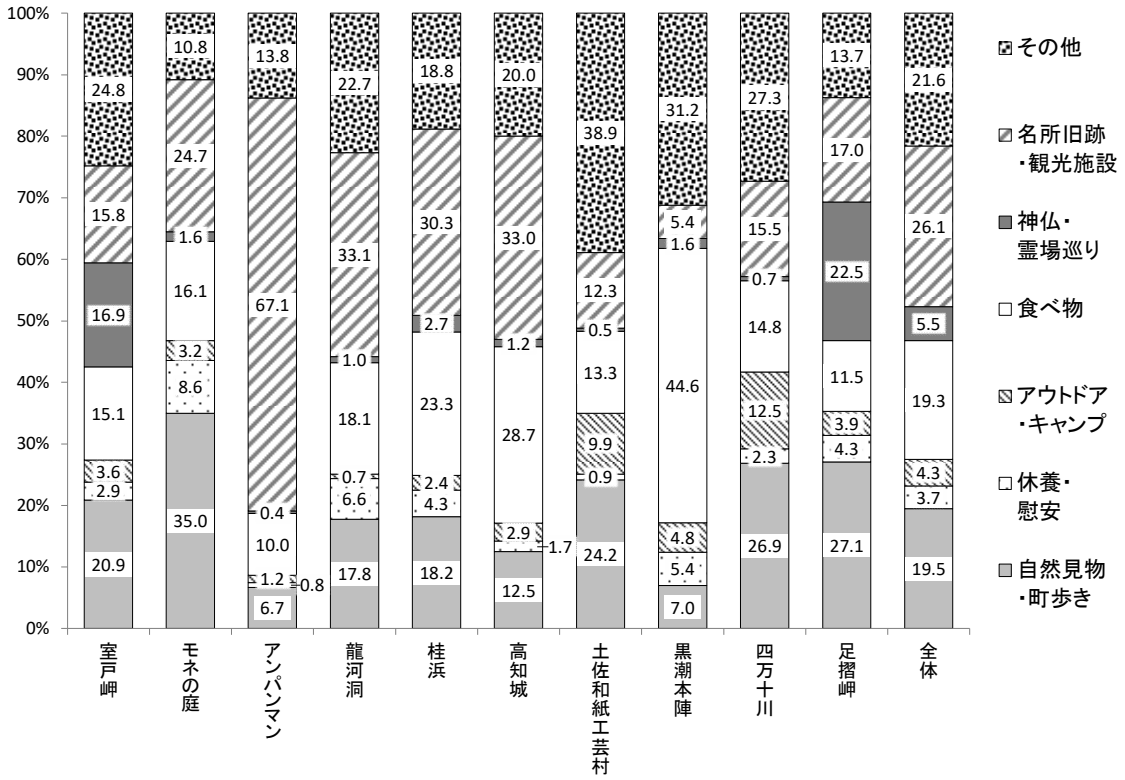
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、モネの庭と土佐和紙工芸村は「ホテル・旅館」「公共の宿」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12　調査地別割合

12.1 旅行目的割合

（図 12-1）調査地別旅行目的割合（%）［ R2 年 ］



（表 12-2）調査地別旅行目的割合（%）［ R2 年 ］

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	**20.9**	2.9	3.6	15.1	16.9	15.8	**24.8**
モネの庭	**35.0**	8.6	3.2	16.1	1.6	**24.7**	10.8
アンパンマン	6.7	0.8	1.2	10.0	0.4	**67.1**	**13.8**
龍河洞	17.8	6.6	0.7	18.1	1.0	**33.1**	**22.7**
桂浜	18.2	4.3	2.4	**23.3**	2.7	**30.3**	18.8
高知城	12.5	1.7	2.9	**28.7**	1.2	**33.0**	20.0
土佐和紙工芸村	**24.2**	0.9	9.9	13.3	0.5	12.3	**38.9**
黒潮本陣	7.0	5.4	4.8	**44.6**	1.6	5.4	**31.2**
四万十川	**26.9**	2.3	12.5	14.8	0.7	15.5	**27.3**
足摺岬	**27.1**	4.3	3.9	11.5	**22.5**	17.0	13.7
全体	19.5	3.7	4.3	19.3	5.5	26.1	21.6

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると（P43：表 12-1、表 12-2）、「室戸岬」「土佐和紙工芸村」「四万十川」は“その他”“自然見物・町歩き”の順で多く、その他の内訳では、「室戸岬」と「土佐和紙工芸村」は“なんとなく（ドライブを含む）”が、「四万十川」は“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物・町歩き”“名所旧跡・観光施設”の順で多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」と「龍河洞」は“名所旧跡・観光施設”“その他”の順で多く、その他の内訳では、ともに“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「桂浜」と「高知城」は“名所旧跡・観光施設”“食べ物”の順で多くなっている。

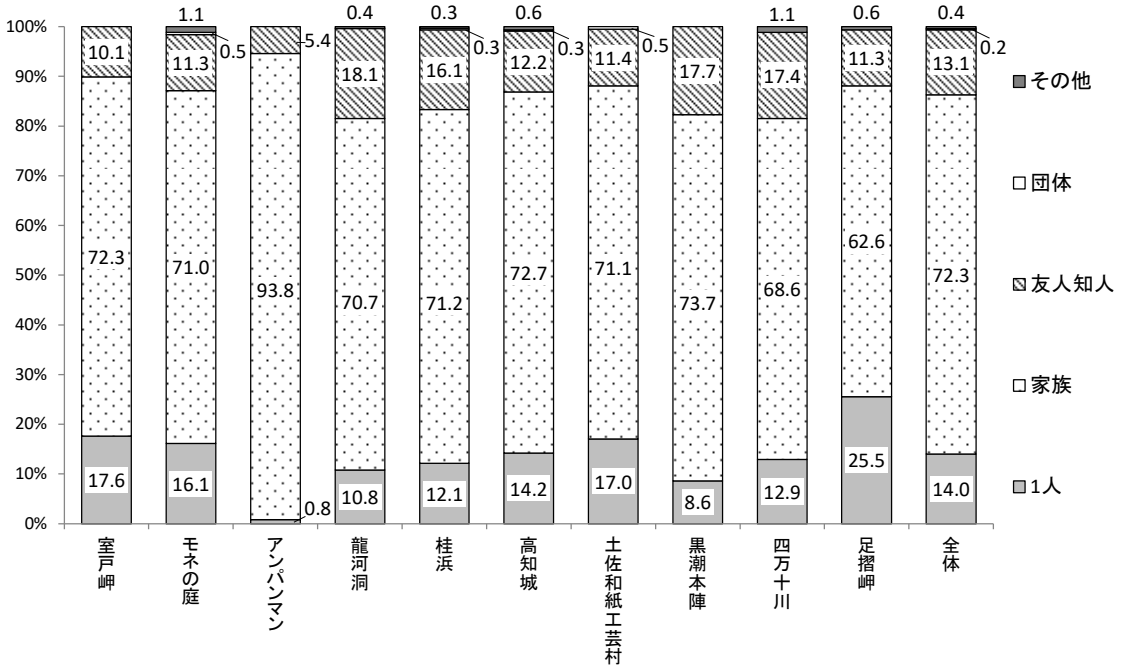
「黒潮本陣」は“食べ物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

「足摺岬」は“自然見物・町歩き”“神仏・霊場巡り”の順で多くなっている。

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、“自然見物・町歩き”は 35.0％で「モネの庭」、“休養・慰安”は 8.6％で「モネの庭」、“アウトドア・キャンプ”は 12.5％で「四万十川」、“食べ物”は 44.6％で「黒潮本陣」、“神仏・霊場巡り”は 22.5％で「足摺岬」、“名所旧跡・観光施設”は 67.1％で「アンパンマンミュージアム」となっている。

12.2 旅行形態割合

（図 12-3）調査地別旅行形態割合（%）［ R2 年 ］

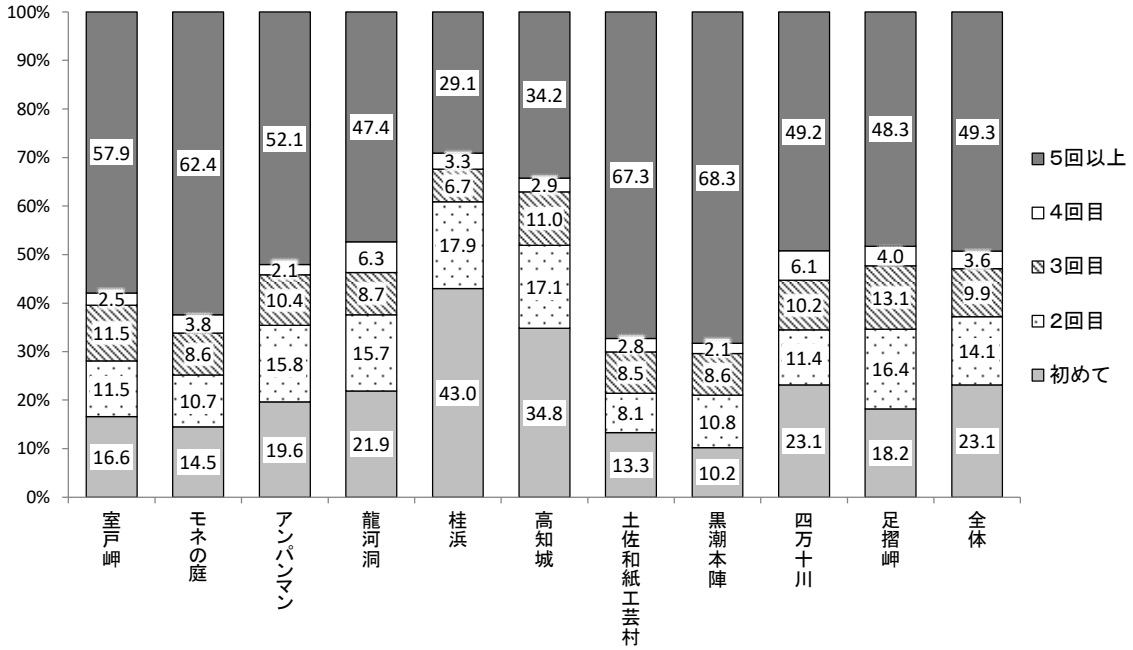


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、モネの庭、高知城、土佐和紙工芸村、足摺岬は「１人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、「１人」は 25.5%で足摺岬、「家族」は 93.8%でアンパンマンミュージアム、「友人知人」は 18.1%で龍河洞、「団体」は 0.5%でモネの庭と土佐和紙工芸村、「その他」は 1.1%でモネの庭と四万十川となっている。

12.3 過去来県回数割合

（図 12-4）調査地別過去来県回数割合（%）［ R2 年 ］



（表 12-5）過去来県回数割合（%）［ H29～R2 年 ］

	初めて	2回目	3回以上			
				3回	4回	5回以上
H29年	24.8	14.5	60.7	－	－	－
H30年	25.1	14.0	60.9	9.4	3.9	47.6
R元年	22.7	14.2	63.1	10.5	3.7	48.9
R2年	23.1	14.1	62.8	9.9	3.6	49.3

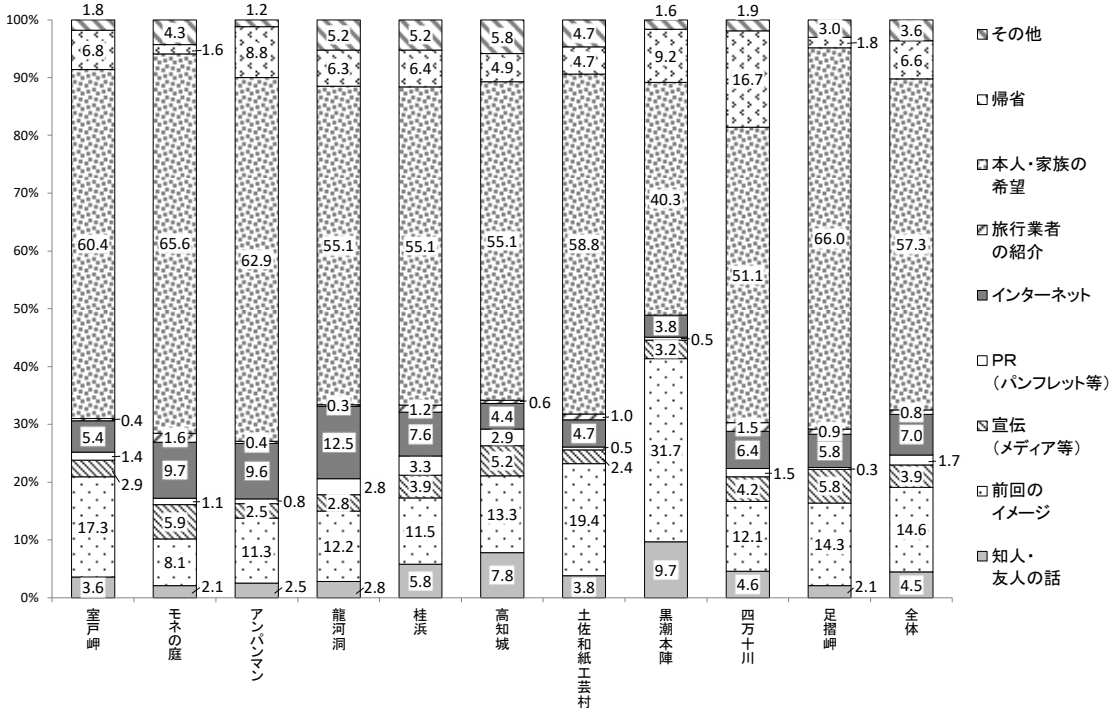
※　3 回以上の具体的な回数の聞き取りは、平成 30 年度調査より実施。

全体の過去来県回数は、「５回以上」が 49.3%と最も多く、次いで「初めて」が 23.1%、「２回目」が 14.1%、「３回目」が 9.9%、「４回目」が 3.6%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、「初めて」は 43.0%で桂浜、「２回目」は 17.9%で桂浜、「３回目」は 13.1%で足摺岬、「４回目」は 6.3%で龍河洞、「５回以上」は 68.3%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

（図 12-6）調査地別動機割合（%）［ R2 年 ］



（表 12-7）調査地別動機割合（%）［ R2 年 ］

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝（メディア等）	PR（パンフレット等）	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	3.6	17.3	2.9	1.4	5.4	0.4	60.4	6.8	1.8
モネの庭	2.1	8.1	**5.9**	1.1	**9.7**	**1.6**	**65.6**	1.6	4.3
アンパンマン	2.5	11.3	2.5	0.8	9.6	0.4	62.9	8.8	1.2
龍河洞	2.8	12.2	2.8	2.8	**12.5**	0.3	55.1	6.3	**5.2**
桂浜	5.8	11.5	3.9	**3.3**	7.6	1.2	55.1	6.4	**5.2**
高知城	**7.8**	13.3	5.2	**2.9**	4.4	0.6	55.1	4.9	**5.8**
土佐和紙工芸村	3.8	**19.4**	2.4	0.5	4.7	1.0	58.8	4.7	4.7
黒潮本陣	**9.7**	**31.7**	3.2	0.5	3.8	0.0	40.3	**9.2**	1.6
四万十川	4.6	12.1	4.2	1.5	6.4	**1.5**	51.1	**16.7**	1.9
足摺岬	2.1	14.3	**5.8**	0.3	5.8	0.9	**66.0**	1.8	3.0
全体	4.5	14.6	3.9	1.7	7.0	0.8	57.3	6.6	3.6

※ 背景色＋太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると（P47：表 12-7)、「本人・家族の希望」が 57.3%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が 14.6%、「インターネット」が 7.0%、「帰省」が 6.6%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は 9.7%で黒潮本陣、「前回のイメージ」は 31.7%で黒潮本陣、「宣伝（メディア等)」は 5.9%でモネの庭、「ＰＲ（パンフレット等)」は 3.3%で桂浜、「インターネット」は 12.5%で龍河洞、「旅行業者の紹介」は 1.6%でモネの庭、「本人・家族の希望」は 66.0%で足摺岬、「帰省」は 16.7%で四万十川となっている。

13　＜参考＞委託事業者の所見

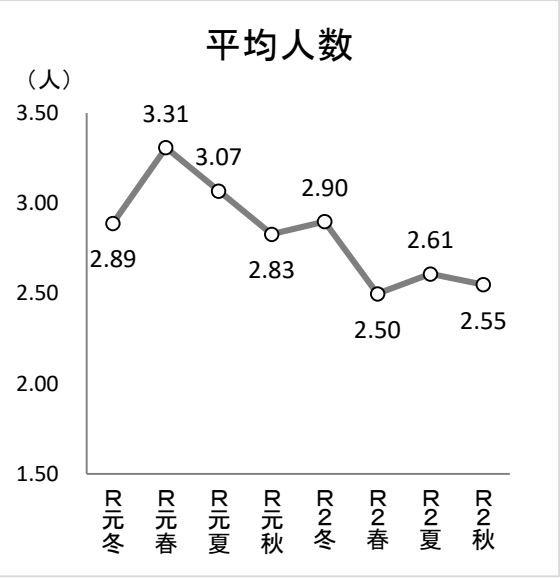
令和２年２月、政府は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国の小中学校と高校、特別支援学校に臨時休校を要請。都道府県や市町村によって休校の実施期間にずれはあっても、概ね３月上旬から休校となった。４月には全国に緊急事態宣言がなされ、解除後も都道府県を跨ぐ移動を抑制する動きや、旅行に行くことをためらう雰囲気が広がった。そのため、高知県内の観光産業（宿泊施設、土産物店、交通機関、飲食店と、それに納品などをする関連業者）は大きなダメージを受けた一年となった。

そういった状況の中で実施した観光統計調査で得られた結果、旅行者の声を参考に、新型コロナウイルス感染症による旅行者の傾向の変化、県内消費額に関する分析等について報告をする。

１．新型コロナウイルス感染症の影響による変化

令和２年の年頭にその存在が公に確認されて以降、全世界のあらゆる地域に拡大していった新型コロナウイルス感染症は、１年以上経過した今もなお世界中の各地域であらゆる経済活動に大きな影響を及ぼしている。本項では今年度調査の結果から、新型コロナウイルス感染症に対応しながら旅行をしようとする人々の意識と行動の変化についてみえてきた主な事柄について報告する。

（図 13-1） 旅行者1組あたりの平均人数（人）



感染症の対策として三密（密集、密接、密閉）を避け、同居する家族以外との濃厚接触を極力避けようとする行動の表れとして、一緒に旅行するグループと利用する移動手段に変化が生じている。

図 13-1 は前年度調査から今年度調査までの四季別に算出した、旅行者１組あたりの平均人数である。

それまでの 3.0 人前後だった水準が、春季調査を境として 2.5 人から 2.6 人ほどで推移していることが分かる。近年は、「１人旅」の割合が増加傾向にあったものの、今年度はさらに「4～5 人」以上の各項目でも割合が減少していること（P30：表 8-2）も影響した結果となっている。

なお、春季の調査時期は、5 月に全国で出された緊急事態宣言が解除され、越境移動の自粛が順次緩和され始めた直後の 6 月下旬から 7 月中旬にあたる。

（表 13-2） 四季別入込交通機関割合の増減（ポイント）［ 前年との差 ］

	自家用車	レンタカー	バイク	航空機	高速バス	JR	その他
冬季	5.6	1.4	0.0	▲ 3.0	▲ 1.6	▲ 1.7	▲ 0.7
春季	7.5	▲ 0.6	1.7	▲ 4.5	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 2.6
夏季	5.8	0.3	3.1	▲ 5.8	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 1.8
秋季	4.7	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 1.4	▲ 0.9	▲ 0.4
年間	6.1	0.2	0.9	▲ 3.7	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 1.4

入込交通機関の割合が前年同時期と比べ、その増減ポイント数をまとめた表 13-2 をみると、「自家用車」はすべての時季で増加となった。その反面、「航空機」「高速バス」「ＪＲ」はすべての時季で減少と、明確な差が表れることとなった。これには、感染拡大時に交通事業者で一時運休があったことの影響もあると考えられる。

なお、変化がみられる冬季は新型コロナウイルス陽性感染者が国内で報告される以前に、モネの庭をのぞく 9 地点で調査を実施していることから、その要因は感染症とは別である可能性が高い。また、秋季は東京都も Go To トラベルの対象に含まれ、地域共通クーポンがスタートした 10 月の調査であり、関東や遠方のブロックが増加したことなどが影響し「航空機」の割合がやや持ち直したことを含んだ結果となっている。

（表 13-3） 発地ブロック別入込交通機関割合の増減（ポイント）［ 前年との差 ］

	自家用車	レンタカー	バイク	航空機	高速バス	JR	その他
北海道・東北	▲ 10.3	9.2	9.4	1.6	▲ 4.9	▲ 2.6	▲ 2.4
関東	5.7	3.5	3.4	▲ 7.1	▲ 1.1	▲ 3.5	▲ 0.8
北陸・新潟	40.6	▲ 0.5	▲ 10.0	▲ 14.7	▲ 5.2	▲ 4.8	▲ 5.6
甲信・東海	▲ 4.9	3.4	1.0	▲ 3.1	2.5	1.2	0.0
近畿	0.8	0.5	0.2	0.0	▲ 1.3	▲ 0.3	0.0
中国	4.5	0.2	▲ 0.5	0.0	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 2.0
四国	2.0	0.1	1.1	0.0	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 2.0
九州・沖縄	19.6	▲ 3.2	1.4	▲ 9.6	▲ 1.7	▲ 0.6	▲ 5.9

さらに、発地ブロック別の入込交通機関の割合を前年比較した表 13-3 をみると、「自家用車」「レンタカー」「バイク」は大半のブロックで増加、その一方で「貸切バス」「航空機」

「高速バス」「ＪＲ」は大半のブロックで減少と、発地ブロック視点でも明確な差が表れている。

このように四季別、発地ブロック別ともに、グループ単位（または個人）で利用する「自家用車」「レンタカー」「バイク」は増加、不特定多数の人と乗り合う形式の「貸切バス」「航空機」「高速バス」「ＪＲ」は減少傾向となった。

以上の結果から、新型コロナウイルスの感染が懸念される状況に対応するため、極力少ない人数で、かつ不特定の人との接触を避けながら旅行をしようとする意識を窺い知ることができる。こういった旅行者の心理や行動は事態収束を迎える日まで続く可能性は高く、「安心」「安全」をキーワードとした受入態勢やおもてなしは、観光資源や宿泊施設等における付加価値の一つとして欠かせない状況となっていると考えられる。

（参考）緊急事態宣言の発出状況と Go To トラベル事業

令和２年	４月	７日	７都府県に緊急事態宣言
		16 日	緊急事態宣言が全国に拡大
	５月	14 日	緊急事態宣言、39 県で解除
		25 日	緊急事態宣言、全国で解除
	６月	19 日	都道府県を跨ぐ移動の自粛が全国で緩和
	７月	22 日	Go To トラベル事業開始（東京都発着分は除外）
	10 月	１日	東京都発着分も対象に追加。地域共通クーポンが開始
	11 月		札幌市・大阪市を皮切りに感染拡大地域を除外する措置が順次とられる
	12 月	28 日	全国一斉に Go To トラベル事業を中断
令和３年	１月	７日	１都３県に緊急事態宣言
		13 日	緊急事態宣言が 11 都府県に拡大

※ Go To トラベル事業

新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛や休業要請で疲弊した、国内の観光関連産業の需要喚起を目的とする政府による経済政策。国内旅行の旅行代金のうち１人１泊あたり２万円を上限に 35％を割り引くキャンペーンで令和２年７月 22 日から開始された。10 月１日からは、宿泊地の都道府県とその周辺の飲食店や土産物店で利用できる旅行代金 15％分の地域共通クーポンを配布。

２．県内消費額に関する分析と考察

ここでは、県内消費額の変動に影響を与える要因について分析した結果とその説明、および考察を付して記載する。

旅行の主要な目的が「観光」と回答した県外旅行者（n=2,279）の、消費額と旅行者の行程や属性について、相関係数 r（２つのデータの関係の強弱を測る指標）を求めた結果は、表 13-4 のとおりである。相関係数の見方の目安として用いられている尺度を参考に、この結果から得られる例を挙げると、「出発地からの距離」と「交通費」との間には強い正の相関があり、遠方から訪れる旅行者ほど交通費が多くなる傾向が強く、逆に負の相関がある「来県回数」と「出発地からの距離」に着目すれば、来県回数が多い旅行者ほど出発地からの距離が少ない（近い）傾向があることなどが分かる。

相関係数の大きさと相関の程度の尺度

-1.0≦r≦-0.7	-0.7≦r≦-0.4	-0.4≦r≦-0.2	-0.2≦r≦0.2	0.2≦r≦0.4	0.4≦r≦0.7	0.7≦r≦1.0
強い負の相関	負の相関	弱い負の相関	ほとんど相関がない	弱い正の相関	正の相関	強い正の相関

（表 13-4）相関係数［ R2 年・観光目的 ］

		消費額の費目					行程		属性（※）			
		交通費	宿泊費	土産代	飲食費	その他	県内宿泊数	立寄数	出発地からの距離	来県回数	同行者の人数	回答者の年代
消費額の費目	交通費	1										
	宿泊費	0.230	1									
	土産代	0.208	0.284	1								
	飲食費	0.350	0.351	0.367	1							
	その他	0.044	0.171	0.064	0.063	1						
行程	県内宿泊数	0.182	0.419	0.140	0.441	0.139	1					
	立寄数	0.253	0.297	0.215	0.333	0.240	0.299	1				
属性（※）	出発地からの距離	0.770	0.258	0.237	0.351	0.090	0.180	0.285	1			
	来県回数	-0.332	-0.237	-0.126	-0.238	-0.063	-0.030	-0.268	-0.450	1		
	同行者の人数	-0.345	0.011	-0.049	-0.109	0.084	-0.120	-0.060	-0.124	0.003	1	
	回答者の年代	0.002	0.046	0.061	-0.044	-0.021	0.037	-0.005	-0.023	0.238	-0.029	1

（※）「出発地からの距離」は、出発地の都道府県庁所在地を基準とした直線距離の概算値。
「来県回数」は、グループ全体で各個人の回答が得られている場合はグループの平均値。得られていない場合は回答者個人の回答値。

旅行者の行程の「県内宿泊数」と「立寄数」は弱い正の相関があり、一方が多ければ、もう一方も多くなるというように、互いに影響を及ぼしていることが分かる。また、「県内宿泊数」は「宿泊費」・「飲食費」と正の相関、「立寄数」は消費額のすべての費目と弱い正の相関がみられることから、旅行者の行程「県内宿泊数」・「立寄数」が多いほど、消費額全体も多いという傾向があると考えられる。

同じように旅行者の属性と消費額をみると、「出発地からの距離」は強い正の相関がある「交通費」に加え、「宿泊費」・「土産代」・「飲食費」とも弱い正の相関がみられ、さらに「立寄数」とも弱い正の相関がある。このことから「出発地からの距離」が増えるほど、その他以外の消費額や立寄数が多くなる傾向があると考えられる。

その一方で、「来県回数」と「交通費」・「宿泊費」・「飲食費」・「立寄数」との間には弱い負の相関、「出発地からの距離」との間には負の相関がみられることから、高知県のファンともいえるリピーターは近隣から訪れる旅行者に多く、立寄数や消費額が少ない傾向があると考えられる。

なお、「同行者の人数」と「交通費」の間には弱い負の相関がみられるが、入込交通機関の大半を占める自家用車を使用した場合などでは、かかった交通費が人数割り計算されるため、その影響によるものと考えてよい。

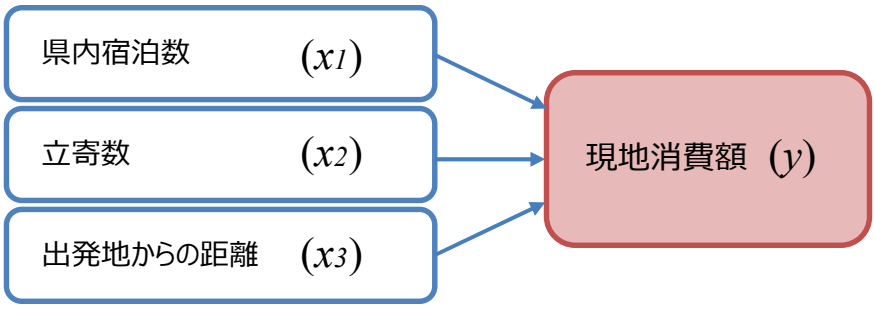
上記で求めた相関係数を参考に、消費額に影響を与える傾向があると考えられる項目について重回帰分析（ある結果（目的変数）について、関連する複数の要因（説明変数）それぞれの影響度を数値化し、結果の予測を行う手法）を行った結果は、表 13-5 のとおりである。

なお、目的変数 y は「現地消費額（交通費を除く 4 費目の合計）」、説明変数の x_1 は「県内宿泊数」、x_2 は「立寄数」、x_3 は「出発地からの距離」としている。また、重回帰式の当てはまりの良さを表す指標、補正 R2（自由度調整済み決定係数）は 0.48 とマーケティング関連データとしては、まずまずと評価ができる水準となった。

（表 13-5）回帰分析［ R2 年・観光目的 ］

回帰統計	
重相関 R	0.693941
重決定 R2	0.481554
補正 R2	0.48087
標準誤差	11181.48
観測数	2279

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	4154.359	568.9389	7.301943	3.9E-13	3038.666	5270.053
県内宿泊数（泊）	9519.441	281.215	33.85111	8.8E-204	8967.977	10070.91
立寄数（ヶ所）	1145.932	188.9652	6.064247	1.55E-09	775.3696	1516.494
出発地からの距離（km）	9.574862	1.594033	6.006688	2.2E-09	6.44895	12.70077



この結果から重回帰式は、以下のように表すことができる。

$$y = 4{,}154 + 9{,}519x_1 + 1{,}146x_2 + 10x_3$$

※ 現地消費額 ＝ 4,154 ＋（9,519×県内宿泊数）＋（1,146×立寄数）＋（10×出発地からの距離）

この重回帰式から、他の説明変数を固定した（変化させない）場合、現地消費額は県内宿泊数が１泊増えるごとに 9,519 円、立寄数が１ヶ所増えるごとに 1,146 円、出発地からの距離が１km 増えるごとに 10 円増加すると予測できる。

以上、相関係数と重回帰分析の結果から、消費額全体を増加させるための取り組みとして、宿泊旅行や周遊観光の促進、比較的遠方である関東や甲信・東海ブロックなどからの誘客、高知県を旅行したことがない（知らない・興味がない）層へのＰＲなどは特に効果が期待できると考えられる。

別紙１

高知県観光客アンケート調査票

Ｑ１．あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

（都道府県名：　　）　　海外の場合（国名：　　）

高知県内の場合
→（市町村名　　）

Ｑ２．あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ１つだけ

性別　：　１．男性　　２．女性
年齢　：　１．10 歳未満　２．10 歳代　３．20 歳代　４．30 歳代　５．40 歳代
　　６．50 歳代　７．60 歳代　８．70 歳代　９．80 歳以上

Ｑ３．今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※１つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。
また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

１．日帰り　２．宿泊
→ 宿泊数＿＿泊　→　そのうち県内＿＿泊　⇒　県内宿泊施設数＿＿施設
（宿泊した施設の数）

＜県内宿泊施設＞
１．実家や知人・親戚宅（　　）泊　　２．旅館　　（　　）泊
３．ホテル　　（　　）泊　　４．ペンション・民宿　（　　）泊
５．保養所・研修所　（　　）泊　　６．キャンプ場　　（　　）泊
７．（ｷｬﾝﾌﾟ場以外の）車中泊・交通機関内での宿泊　（　　）泊
８．別荘・ﾘｿﾞｰﾄﾏﾝｼｮﾝ　（　　）泊　　９．会員制の宿泊施設　（　　）泊
10．ユースホステル・ライダーズイン　（　　）泊　　11．公共の宿　（　　）泊
12．その他　　（　　）泊

＜県内宿泊場所＞
１．東部地域（東洋町～芸西村）　（　　）泊　　２．中央東地域（香南市～南国市）　（　　）泊
３．中央地域（高知市）　　（　　）泊　　４．中央西地域（いの町～仁淀川町）（　　）泊
５．高幡地域（須崎市～四万十町）（　　）泊　　６．幡多地域（黒潮町～大月町）　（　　）泊

Ｑ４．今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※１つだけ

１．ビジネス
２．観光

「２．観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を１つ教えて下さい。
01　自然見物・町歩き　　02　休養・慰安　　03　祭り・イベント
04　登山・アウトドア・キャンプ　　05　スポーツ（プロ野球キャンプ・観戦など）
06　食べ物（味覚・酒）　　07　神仏・霊場巡り　　08　買い物
09　名所旧跡・観光施設などの見学・行楽　　10　なんとなく（ドライブ等含む）
11　その他（　　）

３．帰省・知人訪問
４．（１～３のどれでもない）その他

Ｑ５．今回のご旅行のきっかけを教えて下さい。

１．知人・友人の話　　２．前回のイメージ　　３．宣伝（TV・ラジオ・雑誌等）
４．ＰＲ（パンフレット・キャンペーン等）　　５．インターネット（携帯電話含む）
６．旅行業者の紹介・ツアー参加　　７．来たかった・家族の希望
８．帰省　　９．その他

Q６．今回のご旅行の企画・手配について教えて下さい。

１．自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
２．旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
３．旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q７．あなたも含めて、何人での、どなたと一緒の旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

（　　）人

２人以上の場合 → １．家族　２．友人　３．職場・学校等の団体旅行　４．その他

Q８．ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はＱ７と一致

１．知らない　２．知っている→１回目の人数（　　）人、２回目の人数　（　　）人
３回目の人数（　　）人、４回目以上の人数（　　）人

Q９．（県外にお住まいの方のみお答え下さい）

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

１．はじめて　２．２回目　３．３回目以上（　　回目）

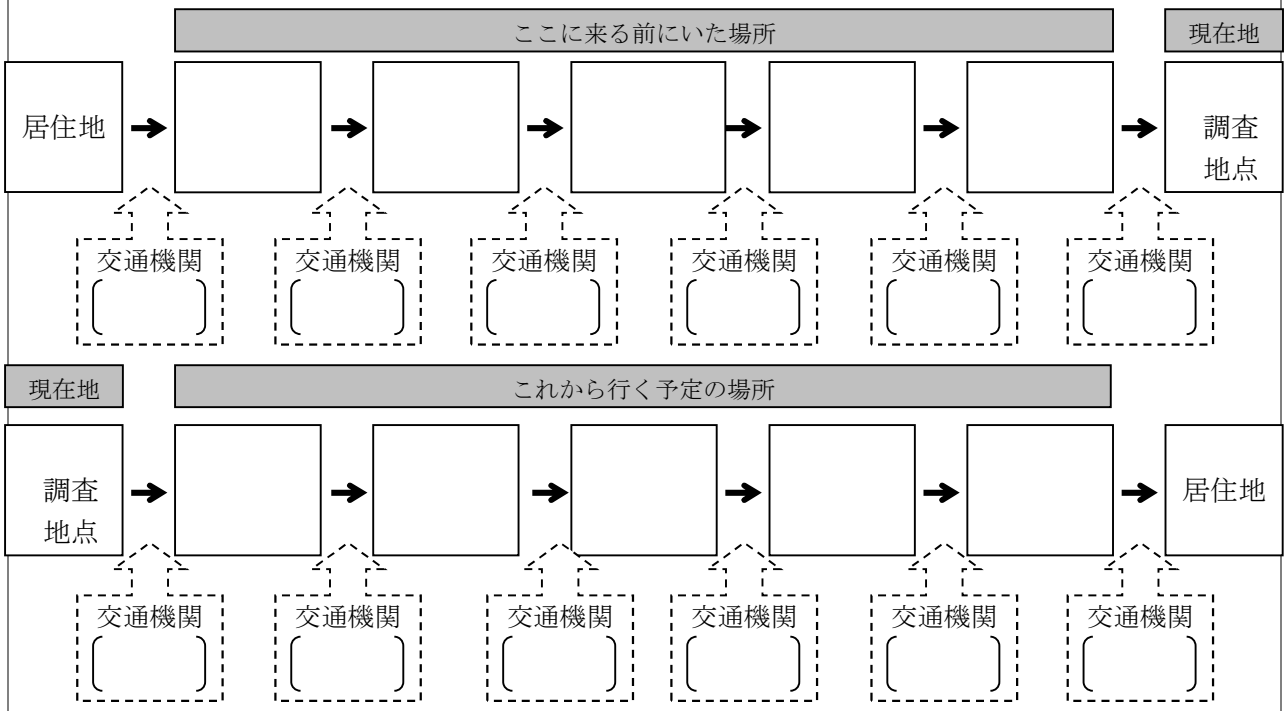
Q10.（県外にお住まいの方のみお答え下さい）

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はＱ７と一致

１．知らない　２．知っている→１回目の人数（　　）人、２回目の人数　（　　）人
３回目の人数（　　）人、４回目以上の人数（　　）人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。
また、この県に訪れる前・後に立ち寄った（立ち寄る予定の）都道府県があれば記入下さい。

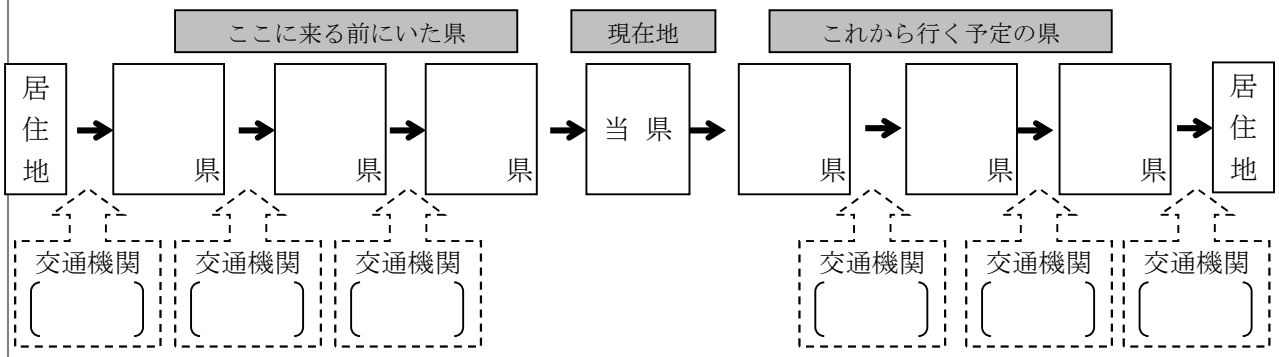
高知県までの主な交通機関〔　　〕　高知県内での主な交通機関〔　　〕



【表】交通機関

①ＪＲ新幹線　②ＪＲ在来線　③私鉄・地下鉄　④モノレール　⑤－１貸切バス
⑤－２観光バス（ＭＹ遊バス等含む）　⑥高速バス　⑦市内バス・路線バス
⑧路面電車　⑨タクシー・ハイヤー　⑩レンタカー　⑪自家用車、社用・公用車
⑫飛行機　⑬フェリー　⑭バイク　⑮その他

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

①ＪＲ新幹線　②ＪＲ在来線　③私鉄・地下鉄　④モノレール　⑤－１貸切バス
⑤－２観光バス（MY遊バス等含む）　⑥高速バス　⑦市内バス・路線バス
⑧路面電車　⑨タクシー・ハイヤー　⑩レンタカー　⑪自家用車、社用・公用車
⑫飛行機　⑬フェリー　⑭バイク　⑮その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えて下さい。
１人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
※ □←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用	使用費用
①交通費	（県内分）　円	（県外分）　円
②宿泊費	（県内分）　円	
③土産代	（県内分）　円	
④飲食費	（県内分）　円	
⑤入場料	（県内分）　円	
⑥その他	（県内分）　円	
⑦パック料金		円 ↑ □県内分のみ　もしくは　□県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1.観_共通_日				:	

・高知県では、「リョーマの休日～自然＆体験キャンペーン～」に取り組んでいます。
・また、約 700 施設で特典が受けられる「龍馬パスポート」を発行しています。

Q1　「リョーマの休日～自然＆体験キャンペーン～」をご存知ですか。
　1　出発前から知っていた　　2　旅行中に知った　　3　知らなかった

Q2　「リョーマの休日～自然＆体験キャンペーン～」の公式ウェブサイトをご存知ですか。
　1　出発前から知っていた　　2　旅行中に知った　　3　知らなかった →Q5 へ
　↓１，２の場合
Q3 公式サイトを知ったきっかけ
　1．ＳＮＳ　2．その他インターネット　3．知人・友人　4．宣伝（TV･ラジオ･新聞･雑誌等）
　5．ＰＲ（パンフレット･キャンペーン等）　6．その他（　　）

Q4 公式サイトの活用方法
　1．体験プログラムの予約　2．情報収集　3．その他（　　）

Q5　「龍馬パスポート」をご存知ですか。
　1　出発前から知っていた　　2　旅行中に知った　　3　知らなかった。

Q6　「龍馬パスポート」をお持ちですか。（Q2 で１または 2 と答えた方のみ。）
　1　持っている。（パスポート種別：１　青　２　赤　３　ブロンズ　４　シルバー　５ゴールド）
　2　現在申請書にスタンプを集めている。
　3　持っていない。

Q7　約 2,000 件の観光情報をスマホアプリに集約した「公式！こうち旅アプリ」をご存知ですか。
　1　出発前から知っていた　　2　旅行中に知った　　3　知らなかった

・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q8　「おもてなしトイレ」をご存知ですか。
　1　知っている　　2　知らなかった

Q9　「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。
　「おもてなしトイレ」の快適性について
　1　大変良い　　2　良い　　3　ふつう　　4　悪い　　5　大変悪い
　【理由】（　　）

Q10　「おもてなしタクシー」をご存知ですか。
　1　知っている　　2　知らなかった

Q11　「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。
　「おもてなしタクシー」の接客マナーについて
　1　大変良い　　2　良い　　3　ふつう　　4　悪い　　5　大変悪い
　【理由】（　　）

☆☆　調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆